

令和2年度
年 報

市立大町山岳博物館

目 次

	頁
令和2年度の活動から	1
I 資料収集・保存管理事業	3
1 資料収集	3
2 資料保存管理	3
II 調査研究事業	6
1 調査研究	6
III 教育普及事業	8
1 展示	8
2 教育普及活動	13
3 執筆・出版	25
4 広報・宣伝	26
5 大町博物館連絡会	27
6 安曇野アートライン推進協議会 美術館・博物館部会	27
7 大町山岳博物館友の会	27
8 ライチョウ会議	30
9 長野県山岳総合センターとの連携事業	30
IV 動植物飼育栽培繁殖事業	32
1 動物飼育繁殖	32
2 植物栽培繁殖	34
3 付属園整備	34
4 公益社団法人日本動物園水族館協会	35
V その他	36
1 各種委員等の委嘱他	36
2 アルプス動物園との友好提携協定の締結	36
3 信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結	36
4 長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結	36
5 ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結	37
6 梅棹忠夫 山と探検文学賞への協力	37
VI 運営	38
1 組織および職員構成	38
2 市立大町山岳博物館協議会	38
3 利用者状況	40
4 令和2年度予算・決算	44
5 ミュージアムカフェ・ショップ	44
VII 関係条例規則等	45
1 市立大町山岳博物館条例	45
2 市立大町山岳博物館規則	47
3 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱	49
VIII 市立大町山岳博物館の使命	50
1 市立大町山岳博物館創立60周年を機に	50
2 平成24年度からの市立大町山岳博物館の基本理念	50
3 平成24年度からの市立大町山岳博物館の基本方針	51
IX 施設	53
1 敷地面積	53
2 本館建物	53
3 付属施設	54
X 利用案内	55

令和2年度の活動から

館長 鈴木 啓助

令和2(2020)年1月15日に、国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されました。その後の感染症の拡がりとともに令和2年度は始まりました。4月7日に7都府県に発令された緊急事態宣言が、4月16日には全国に拡大され、4月17日には長野県で緊急事態措置が実施されました。それを受けて、山岳博物館は4月19日から6月1日まで臨時休館となりました。

4月25日からは、企画展「日本山岳画協会 大町展」が予定されていたので、展示の準備も順調に進み、もうすぐオープンという時期での臨時休館でした。そのため、予定されていたギャラリートークや3回のワークショップはすべて中止となりました。企画展「日本山岳画協会 大町展」は、6月2日に再開館してから7月12日まで開催されました。関連催しがすべて中止となり、かつ開催期間も短くなってしまい、本企画展の準備にご尽力頂いた日本山岳画協会の皆様にはご迷惑をおかけし誠に申し訳ありませんでした。また、「好んで山を描く画家」の皆様との交流を楽しみにしていた市民の皆さんにもお詫び申し上げます。

4月18日に予定されていた友の会総会と記念講演会も中止になってしまいました。なお、矢野孝雄氏による記念講演会は、令和3(2021)年4月18日に延期・開催される予定です。例年、ゴールデン・ウィークに開催し好評を得ています「付属園まつり」も中止せざるを得ませんでした。

再開館後は、来館者の皆様に入館時の検温と手指消毒をお願いし、観覧中もマスクを着用して頂いています。展示物に触れることもご遠慮して頂いており、博物館としても館内の定期的な消毒や講堂での催しでは換気を徹底して行っています。

夏休み前の当館での催しもほとんどが中止となり、子ども達が学校外で学び遊ぶ機会が極端に少なくなったことから、夏休みに「今年の夏休みは山博で遊ぼう」を急遽企画開催しました。事前予約の定員制やマスク着用などのコロナ対策も行いましたが、事前広報の期間がほとんど無かったことなどから、参加者数は想定よりも多くない状況でした。

本年度ふたつめの企画展として、7月18日から9月27日まで、「博物学と登山」を開催しました。これは、大正登山ブームや信州理科教育のさきがけともなった明治・大正・昭和初期における博物学と登山の関わりを紹介する企画です。開催期間中に、午前と午後のミュージアムガイドを3日間にわたり実施しました。博物学ゆかりの現地探訪を目的として白馬大池でのフィールドワークを、7月28日・29日に企画しましたが、あいにくの梅雨前線と低気圧の影響で中止となってしまいました。博物学の神髄であるフィールドワークを楽しみにしておられた多くの皆様は本当に残念でしたが、博物館講堂での座学を急遽用意いたしました。8月1日には、ワークショップ「さんぱくこども夏期大学 一壇百験 一山のミニ科学実験教室」を開催したところ、申し込み締め切りの1週間前には定員に達するほどの盛況でした。子ども達が楽しそうに実験に取り組む姿は担当者の励みになったことと思います。さんぱくゼミナール「信州の教育者・地質学者 保科百助 一明治期を駆け抜けた唯一無二の奇才 五無齋にせまる」を、講師として村田長年氏をお迎えして、9月20日に開催しました。保科百助について長年にわたり研究を続けている講師のお話には説得力があり、聴衆一同が保科百助をより深く知ることができました。

9月22日には、「バックヤード見学会 何があるのかな？博物館収蔵庫・図書資料館を見て回ろう！」を開催しました。博物館には、展示している絵画・登山道具・剥製などの何倍もの数が収蔵保管されています。山岳に関する図書を多数収蔵している図書資料館は普段でもご覧頂くことができますが、数多くの資料が収蔵保管されているバックヤードは、普段は公開していません。そのため、参加して頂いた皆様は、いろいろなお宝の数々にとっても興味を引かれたようでした。

本館にたびたび足を運んで頂くことを願い、特別展示室は季節ごとに展示を交代したいと考えています。本年度は3種類の企画展を用意することができました。10月3日から1月17日までは、企画展「雪が織りなす物語」を開催しました。本企画展の趣旨は、北アルプスに大量の雪を降らせる気象条件と地理的な位置を説明し、降雪、積雪から融雪に至る物理・化学両面の過程を解き明かすとともに、山と水に恵まれた大町の象徴である雪にまつわる物語を紡いでいくものです。開催期間中に、午前と午後のミュージアムガイドを3日間にわたり実施しました。11月15日には、さんばくゼミナール「雪が織りなす物語」を開催し、企画展の展示内容を鈴木が説明しました。

本館の入館者は、夏季に比べて冬季には減少することが課題となっていますが、それを克服するひとつの試みとして、本年度は「山のサイエンスカフェ」を開催しました。これは、日頃から調査研究に打ち込んでいる学芸員や専門員が、その成果を説明するとともに、参加者の皆様とワールド・カフェ形式で語り合うことを目的とする企画でした。しかし、今年度はコロナ禍のため、講演会形式にせざるを得ませんでした。3月7日と14日に、それぞれ3件の講演があり、参加者の皆様と活発な質疑応答がなされました。

資料収集・保存管理事業としては、寄贈による収集資料が10件、34,000点・196ケースあり、収蔵数は、自然科学系資料が18,242点、人文科学系資料が13,726点、図書資料が37,103点となりました。

調査研究事業としては、高山植物の生活史に関する研究、ライチョウの飼育・増殖技術確立を目指した研究や博物学に関する調査などを行い、成果については展示や研究紀要論文として発表しました。出版事業としては、研究紀要の他に季刊の広報誌「山と博物館」を発行し市内全戸に配布しました。

教育普及活動の一環として、市内の小中学校をはじめとする学校で、学芸員等が連携授業・実習等を50回担当しました。教育委員会所管の博物館として、小中学校との連携は重要な役割であると認識していますので、今後とも充実した企画を提供していきたいと考えています。

ニホンライチョウの飼育繁殖事業としては、1つがいの自然繁殖に取り組みました。有精卵を自然抱卵させることはできましたが、孵化には至りませんでした。また、有精卵のひとつを環境省が主導している中央アルプス野生復帰事業に提供しました。本館が提供した有精卵については孵化が確認されましたが、その後、孵化したすべての雛について死亡が確認されました。令和3(2021)年度も自然繁殖に取り組めるよう準備しています。

友の会の皆様には、山岳博物館の事業で多方面からご支援頂き感謝いたします。今年度も、様々な行事を企画して頂きましたが、残念ながら多くの行事が中止となってしまいました。7月11～12日には防災キャンプ、令和3年2月13日には、「ゆきんこの話 第2弾 南極の話」を開催して頂きました。

以上、令和2(2020)年度に実施しました山岳博物館の主な事業についてご報告させて頂きました。当館の事業を実施するにあたりましては、大町市民の皆様をはじめ、友の会の皆様、その他関係機関の皆様に大変お世話になりました。末筆ながら深くお礼を申し上げますとともに、引き続き当館の活動に更なるご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。

最後に、コロナ禍前のように、気楽に来館し、のびのびゆっくりと展示を楽しんで頂ける日が再び訪れますことを祈念いたします。

I 資料収集・保存管理事業

1 資料収集

(1) 新規収集資料

令和2年4月1日から令和3年3月31日の間に寄贈によって次の資料を収蔵した。

①寄贈による収集資料

内訳は、地質標本（自然科学系）2件196ケース及び1点、魚類剥製（自然科学系）1件4点、山岳資料・山岳図書資料（人文科学系）7件3,391点、植物さく葉標本1件・709点である。

No.	受入日	資料名	数量	寄贈者	住所
1	4月3日	北アルプスおよび周辺域の岩石標本	196 ケース	信州大学理学部	長野県松本市
2	4月3日	小川層産後期中新世クモヒトデ化石	1点	個人	東京都杉並区
3	5月20日	山岳図書（岩と雪 他）	3,075点	個人	東京都清瀬市
4	5月28日	山岳図書（新装版いまだ下山せず！ 他）	68点	個人	長野県安曇野市
5	10月20日	山岳資料（飯田山岳会ランタン・ヒマール遠征隊木製運搬箱 他）	16点	個人	東京都世田谷区
6	12月25日	山岳資料及び山岳図書（フリッチ製ピッケル 他）	6点	個人	長野県松本市
7	1月20日	植物さく葉標本	709点	個人	長野県松本市
8	3月9日	山岳図書（総合登山技術ハンドブック 他）	3点	長野県山岳協会	長野県諏訪郡下諏訪町（事務局）
9	3月9日	山岳図書（日本山岳地図集成第1集 他）及び山岳関係特殊切手	126点	個人	長野県大町市
10	3月10日	魚の剥製（イワナ 他）	4点	個人	長野県大町市
11	3月27日	近藤等旧蔵 山岳図書・書簡等及びピッケル	97点	個人	東京都目黒区

②購入・製作による収集資料 ※博物館資料としての購入・製作した備品扱いの物品のみ（消耗品扱いの図書資料は除く）。該当なし。

2 資料保存管理

(1) 収蔵資料

①自然科学系資料

分類名および点数		自然科学系 合計 19,755点・196ケース	
蘚苔類（乾燥標本）	674点	哺乳類（剥製・骨格標本）	242点
維管束植物（液浸標本）	7点	鳥類（剥製標本）	666点
維管束植物（さく葉標本）	10,000点	昆虫（標本ドイツ箱）	258点
魚類（液浸標本等）	70点	昆虫（未標本作製資料を含む）	4,600点
両生爬虫類（液浸標本等）	72点	昆虫（液浸標本）	27点
貝・甲殻類（液浸標本）	13点	その他液浸標本（調査研究資料）	103点
		岩石、鉱物・鉱石、化石等（地質標本）	3,023点 196ケース

②人文科学系資料

分類名および点数		人文科学系 合計 13,726点	
山岳	11,896点	寄託（山岳、美術）	409点
民俗	959点	（寄託内訳）	

美術	249 点	個人寄託 160 点※	
美術 (尾竹正躬関係)	201 点	※うちピッケル関係 93 点	
歴史	12 点	団体寄託 249 点	

③本館図書室に収蔵されている自然科学系図書資料

分類名および点数	自然科学系	合計	7,014 点
自然科学系一般図書資料	6,793 点	自然科学系一般A V資料	221 点

④山岳図書資料館に収蔵されている人文科学系図書資料

分類名および点数	人文科学系	合計	39,452 点
人文科学系一般図書資料	29,804 点	人文科学系一般A V資料	285 点
山岳資料としての図書資料 (注 ¹)	9,363 点		

(注¹) ④記載の山岳資料としての図書資料点数は、②記載の人文科学系の山岳資料点数に含む。

⑤収蔵資料の点数

総計 70,584 点・196 ケース (令和3年3月31日現在)

⑥現状と課題

a. 自然科学系

前年度に引き続き、大町山岳博物館友の会サークル「花めぐり紀行」のメンバーに台紙へのマウント作業を依頼し、2,000 点余りの登録および配架が完了した。これまでの登録を合わせると、約 10,000 点にのぼり、そのうち本年度は 2,000 点についてミュージアムネット (S-net) に情報提供を行った。

b. 人文科学系

昭和 26 年の開館以降の未整理の山岳資料 (二次資料や文献資料も含む) 及び民俗資料が多数あり、また、現在も年間を通じて新規の寄贈を受けており、毎年継続的に相当量の資料整理・登録作業の必要性が生じている。担当学芸員と事務員を兼務する資料整理員によって通年での作業を随時継続実施しているが、新規受入資料や過去の未整理資料の量に対し、整理作業が追い付いていない状況にある。登録博物館として博物館法に定める事業を実施していく中で、資料収集・保管は基礎的な事業に位置づけられており、博物館活動を行う上で、資料整理・登録業務は常時継続的に実施していくことが求められる。今後も引き続き、年度ごとに計画的・効率的に集中して整理作業を完遂させたい。

なお、山岳博物館では、これまで収蔵資料の目録が整備されていない状況であったため、平成 26 年度以降、人文科学系の収蔵資料目録を作成、当館公式ホームページ上で一般公開を行っている。公開する目録については PDF データとし、ホームページ制作委託業者によるメンテナンスにあわせて、最新のデータに毎年更新を行っている。今後は収蔵資料に関する情報公開をさらに進めるため、資料整理の徹底実施を図りたい。

資料整理と収蔵資料に関する情報公開に関し、将来的な課題として、当館収蔵資料 (全分野) のほか、市文化財センターの収蔵資料 (考古・歴史・民俗資料) と生涯学習課で管理する美術資料を含め、市教委が保管する市所有の各種資料の一括管理について、専門業者が手掛ける博物館・美術館収蔵資料の情報処理システム導入 (目録の記録内容のテキストデータや収蔵資料の記録写真の画像データの公開も含め) の必要・有効性や効率性などを関係課・係と協議・研究する必要がある。

(2) 保存管理

資料の保存あたっては、忌避剤やフェロモントラップを定期的に入れ替え、害虫の進入を予防する防虫対策を行うとともに、夏期に空調を稼働して温湿度を調節して防霉等の対策を行ったほか、外気との接点を目止めするなどの防塵対策を行うことで、展示・収蔵環境の管理を随時行った。

寄贈資料等について、収蔵庫や山岳図書資料館への配架に際し、事前に浸透性の高いフッ化スルフル系製剤 (ヴァイケーン薬剤) を用いた専門業者による 24 時間の包み込み燻蒸を本年度も行った。

展示室や収蔵庫を含め、資料の保存管理環境に関し、博物館レベルの水準に近づけるための維持管理にともなう日常業務の作業量増加や、施設の老朽化に伴う対処業務の事務量増加への対応を検討するとともに、将来を見通した抜本的な施設改修計画を策定する必要がある。同時に、事業全体の中での

展示・収蔵環境の維持管理の位置づけを再確認するとともに、分野ごとの担当業務量のバランスを考慮した上で、PDCA サイクルや D-OODA ループによる個別事業と事業全体の再評価と業務の効率化を一層図るなどの業務改善を継続実施することが重要である。

(3) 協力依頼による活動

① 標本の乾燥

令和 2 年 7 月の豪雨により施設が浸水被害をうけ標本に甚大な被害の出た人吉城歴史館（熊本県人吉市）の標本レスキューを受け入れた安曇野市立豊科郷土博物館より、修復を終えた標本の最終乾燥を行うため、当館に運び込み、乾燥機で実施した。

II 調査研究事業

1 調査研究

(1) 高山植物の生活史に関する研究 (担当：千葉悟志)

本年度は、7月6日及び8月19日に八方尾根、7月21日～22日に白馬岳、9月8日に白馬大池周辺において、花、種子、果実及び訪花する昆虫相の調査を実施し、企画展に反映させる資料収集を兼ね調査を行った。

(2) 大北地域の植物分布調査 (担当：千葉悟志)

長野県の植物相を把握するため、県下で実施されている植物調査のうち、山岳博物館は今年、大町市内のスキー場及び白馬村深空などで行った。期間は8月～9月の間、計4回調査を行った。調査の際には見直しができるように標本を採取した。これらの標本は証拠として山岳博物館植物標本庫に配架予定である。

また、得られた新発見等は長野県植物研究会誌第54号で発表される予定である。

なお、4月～6月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため博物館が臨時休館となったことから、この間、調査は実施しなかった。

(3) ライチョウの飼育・増殖技術確立を目指した研究 (担当：栗林勇太)

ニホンライチョウ及びスバルバルライチョウにおける基礎調査として、飼育舎内における年間を通じた温度・湿度・紫外線強度・日照度の測定を継続している。また、定期的な体重測定、採餌量の測定、換羽した羽の枚数の測定を行っている。

両亜種に関する研究として、ライチョウ類飼育園館、日本獣医生命科学大学、岐阜大学、中部大学、東京農業大学と連携を行いながら共同研究を進めている。今後も関係機関と連携を図り、ライチョウの保全事業に必要と考えられる調査研究を行っていく。

協同研究では無精卵や未発生卵の検査、クレアチニン／尿酸比の季節的検査を日本獣医生命科学大学と、糞中に含まれるホルモン測定による温度、日照時間等の関係を岐阜大学、腸内細菌叢については中部大学にデータの提供を行った。昨年度から本年度まで、換羽の季節的变化について研究を行っている東京農業大学に、ニホンライチョウの落下羽を提供した。

(4) 日本で繁殖するチョウゲンボウの遺伝的多様性の解明 (担当：栗林勇太・藤田達也・遠藤モナミ・小里玲奈・唐澤紗波・辰己萌恵)

弘前大学大学院農学生命科学研究科・黒尾正樹氏は脊椎動物の遺伝的多様性を研究し、現在チョウゲンボウの羽毛などからDNAを抽出し、青森県弘前市近郊で繁殖している個体群について個体間の関係を調査している。調査により、弘前市近郊で繁殖する個体は比較的近縁で親子交配や兄弟姉妹交配が起こっていることが判明したことで、日本各地のチョウゲンボウの遺伝的構造を調べる必要が生じた。そこで山岳博物館も研究協力として、当館で保護飼養しているチョウゲンボウ(雌雄それぞれ1羽)について尾羽を3枚ずつ採取し、提供を行った。

(5) 博物学に関する資料調査 (担当：関悟志)

本調査については、本年度企画展「博物学と登山 一大正登山ブームと信州理科教育のさきがけ」開催に向けて実施したものである。本年度までに実施した関係資料情報の収集(一次資料、二次資料の確認)や文献調査とともに、それらを補完するために昨年度までに実施した関係山域での現地調査の成果をもって本展を開催し、その内容は展示解説書にまとめた。また、一部詳細に関しては、本年度研究紀要において資料として掲載した。

(6) 山岳書籍に関する資料調査 (担当：関悟志)

山岳博物館では令和4年度、山岳図書資料館オープン10周年にあわせて山岳書籍に関する企画展の開催を計画している。企画展開催に向けて、関係資料情報の収集(一次資料、二次資料の確認)や文献調査を実施した。

(7) 仁科三湖と佐野坂丘陵の成り立ちを探る（担当：太田勝一）

仁科三湖と佐野坂丘陵の成因については、従来不明な点が多かった。仁科三湖のうち中綱湖と青木湖は、かつては白馬盆地に連続した谷だったと考えられている。その後、西側山地で大規模な山地崩壊が発生して佐野坂丘陵が形成されたため、かつての谷が南北に分断されたと考えられている。しかし、その論拠の多くは空中写真などを用いた地形の解釈であり、成り立ちの実体は分かっていない。そこで、本研究では地質調査による地層の分布から、仁科三湖と佐野坂丘陵の成り立ちの実態を明らかにすることを目的とする。令和2年度は延べ7日の野外調査を行い、佐野坂丘陵とその西側山地の地質構成の概略を把握した。これにより、大規模崩壊の発生機構についていくつかの作業仮説を導いた。結果は、令和2年度の博物館紀要で公表した。

(8) 協力依頼による活動

①植物の採集

東京農業大学三井裕樹准教授の依頼により、大町市内においてサワオグルマ 3 個体を採取し、さく葉標本にして送付した。

Ⅲ 教育普及事業

1 展示

(1) 常設展示

メインテーマを「北アルプスの自然と人」とし、「自然と人が共生する山岳文化」を山岳博物館からのメッセージとして伝える。

① 展示テーマおよび展示資料点数 総計 1,012 点 (令和3年3月31日現在)

内訳 (自然科学系 合計 453 点、人文科学系 合計 559 点)

展示テーマ	資料 点数※ ¹	展示テーマ	資料 点数※ ¹
3階 展示室 「あなたと山のかかわり 展望ラウンジ」ゾーン			計 104 点
大町のプロフィール	24 点	大町の空からマップ	1 点
後立山連峰のパノラマ	1 点	山頂の石たち	5 点
北アルプス後立山連峰の山々	20 点	雪形の伝承	27 点
山の伝説	7 点	「北アルプスの自然と人」映像	1 点
つながりプロローグ	18 点		
2階 ホール 「山の成り立ち」ゾーン			計 80 点
水の惑星・地球 46 億年の生い立ち	36 点	日本列島の生い立ち	1 点
驚きのフォッサマグナ	18 点	驚きの北アルプス	23 点
「北アルプスの生い立ち」映像	1 点	中部地方衛星写真	1 点
2階 展示室 「山と生きもの」ゾーン			計 368 点
立山の氷河・カクネ里雪渓・いまを生きる生物	3 点	里山から高山までの生物	249 点
ニホンカモシカ	9 点	ライチョウ	62 点
溪谷の生物	9 点	湖の生物	18 点
湿原の生物	14 点	ライチョウの捕食者	4 点
1階 展示室 「山と人 北アルプスと人とのかかわり」ゾーン			計 429 点
山の魅力	7 点	北アルプスと人とのかかわり年代記	7 点
峠を越える ―針ノ木峠の歴史―	39 点	山に暮らす ―山の恵みと山村の暮らし―	87 点
山に祈る ―山の信仰―	20 点	「山と人」映像	1 点
大町山岳人列伝	10 点	山を測る ―測量―	5 点
山を調べる ―博物学―	23 点	山を描く ―絵画―	8 点
山を写す ―写真―	21 点	山で学ぶ ―日本の近代登山―	145 点
山に住まう ―山小屋の変遷―	28 点	登山の道具	23 点
山とのかかわりの窓		つながりコラム	5 点
1階 エントランス・ホール			計 8 点
「北アルプスの自然と人」導入	1 点	山とわたしたちの未来	
新・対山館サロン	1 点	こどもひろば	6 点
1階 特別展示室 「山と美術 ―山岳風景画とウッドシャフトピッケル―」※ ²			計 23 点
山岳風景画	18 点	ウッドシャフトピッケル	5 点

※¹ 点数には、実物資料のほか、写真・図表グラフィックなどの図版資料と映像資料を含む。

※² 特別展示室の展示については、特別展・企画展開催時には各テーマで展示替えを行う。

(2) 企画展示

① 「日本山岳画協会 大町展 ―山に魅せられた画家たち―」(企画：関本景香、担当：千葉悟志)

a. 会 期：令和2年4月25日(土)～7月12日(日)(延べ92日間)の日程で計画を進めてきたが、新型コロナウイルスの感染が拡大し博物館自体が4月19日～6月1日まで臨時休館となったため、会期が短縮され、6月2日～7月12日(延べ37日間)の開催となり、オープニングセレモニーをはじめ、

予定していた関連イベントはすべて中止となった。

b. 会 場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概 要：昭和 11 年に結成された日本山岳画協会は、令和 2 年度で 84 周年を迎え、現在 25 名による会員で活動を行っている。大町山岳博物館による第 1 回特別展は、昭和 59 年に開催されたのをかわきりに、当博物館においてはおよそ 5 年ごとに特別展を開催しており、今回で 8 回目の開催となる。

d. 展示構成：日本山岳画協会（代表幹事：江村眞一）会員 25 名による山岳風景画の展示。作品数は全 26 点。

e. 観覧者：1,355 人（有料 1,056 人、無料 299 人）

f. 所 見：本年度は、新型コロナウイルス感染の拡大が見られ、急遽臨時休館を余儀なくされたため、入館者数の減少はもとより、予定していた様々なワークショップも開催できず、貴重な体験の機会を逸し教育普及を実施できなかつたことは大変残念であった。

g. 関連事業

ア オープニングセレモニー及びギャラリートーク

・開催日：令和 2 年 4 月 25 日（土）

・時 間：午前 10 時～午前 11 時

・場 所：市立大町山岳博物館 玄関ほか

・参加費：無料

・概 要：本企画展のオープニングを飾るセレモニーを、御来賓・理事者・日本山岳画協会会員ほかの皆さんを招いて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

イ ワークショップ「木版画刷実演」

・開催日：令和 2 年 4 月 29 日（水・祝）

・時 間：午後 1 時～午後 3 時

・場 所：市立大町山岳博物館 1 階ホール

・概 要：山岳画協会の杉山修氏を招いてのワークショップを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

ウ ワークショップ「親子絵画教室～画家の先生と一緒に北アルプスを描こう～」

・開催日：令和 2 年 6 月 7 日（日）

・時 間：午前 10 時～午後 2 時

・場 所：市立大町山岳博物館 講堂及び大町公園

・参加費：無料

・概 要：山岳画協会から 3 名の講師を招いて、北アルプスを眺めながら山岳画を描く講座を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

エ ワークショップ「ぬり絵はがきづくり体験」

・開催日：令和 2 年 6 月 28 日（日）

・時 間：午前 10 時～正午

・場 所：市立大町山岳博物館 講堂

・参加費：無料

・概 要：山岳画協会の作家の皆さんから描いていただいた下絵に、彩色して自分だけのオリジナル絵はがきづくりを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

h. 関連印刷物

企画展「日本山岳画協会 大町展」作品目録（A4 版、単色両面印刷）7,000 部、企画展チラシ（A4 版、両面カラー印刷）6,000 部、広報誌『山と博物館』特集記事掲載 11,000 部などを印刷した。

②「博物学と登山 ―大正登山ブームと信州理科教育のさきがけ―」（担当：関悟志）

a. 会 期：令和 2 年 7 月 18 日（土）～9 月 27 日（日） ※開催日数：延べ 69 日間

b. 会 場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概 要：大正登山ブームや信州理科教育のさきがけともなった明治・大正・昭和初期における博物学と登山のかかわりについて紹介。博物学に通じた長野県内の教諭の士々が残したゆかりの品々約 30 点を展示。会期中、館内で展示の見どころなどを解説するミュージアムガイド、博物学にかかわる現地のフィールドをたずねる登山、企画展内容に関する講演会やワークショップを開催。なお、本展は渡邊敏没後 90 年に際しての開催と位置付けた。

d. **展示構成**：大正登山ブームや信州理科教育のさきがけともなった明治・大正・昭和初期における博物学と登山のかかわりについて、博物学に通じた長野県内の教諭の士々を群像として紹介し、展示を構成した。

ア **第1章 博物学と登山**…本草学／博物学／学術登山

イ **第2章 大正登山ブーム —近代登山の隆盛—**…交通機関の発達／地形図の発行／山小屋の開業／学校集団登山の実践

ウ **第3章 信州理科教育のさきがけ —博物学の士々群像—**…渡邊敏／長野県の学校登山の現状／田中阿歌麿／河野齡蔵／活躍する先生たち／矢澤米三郎／博物館や学校が所蔵する標本の価値／保科百助（五無齋）／志村寛（烏嶺）

エ **第4章 山の博物誌 —過去・現在・未来へ—**…北ア後立山フィールドガイド／北アルプスは世界屈指の豪雪地／白馬大池火山の地形・地質／白馬連山高山植物帯／小蓮華山付近に生きるライチョウ／白馬大池のクロサンショウウオ／山小屋物語／雪形伝承と山名考

e. **観覧者**：4,288人（有料3,562人、無料726人）

f. **所見**：市民・近隣地域住民、市外から来館した観光旅行者・登山者に対し、近代登山隆盛のひとつの要因を成したと考えられる博物学の分野による学術登山や、博物学者である教員らによる学校集団登山が持つ日本登山史上の意義について展示を通して伝えることができ、有意義であった。本展のテーマは常設展の展示構成にも組み込まれている内容であり、個別の企画展で取りあげることで、より詳しく解説するとともに、常設展のひとつコーナーに関する資料情報等をさらに蓄積することができた。なお、期間中の観覧者（4,288人）は、前年度比マイナス66.6%（R1年度6,439人）、前々年度比マイナス68.1%（H30年度6,301人）となり、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の要因によって例年の同時期より大幅に観覧者数が減少したため、本展開催が一定の集客につながったかどうかの判定は難しい状況である。

g. **関連事業**

ア **ミュージアムガイド**（担当：関悟志）

- ・開催日：令和2年7月19日（日） ※初日翌日・家庭の日
8月10日（月・祝） ※山の日
9月26日（土） ※最終日前日
- ・時間：各日とも午前10時～・午後2時～ 各回1時間程度
- ・場所：市立大町山岳博物館 特別展示室
- ・参加者：延べ参加者60人（大人58人、小中生2人） ※観覧料以外の参加費無料
- ・概要：学芸員が展示の見どころなどを解説。

イ **フィールドワーク「白馬大池登山 —博物学ゆかりの現地探訪—**

（担当：関悟志・太田勝一・千葉悟志・栗林勇太）

- ・開催日：令和2年7月28日（火）・29日（水） ※1泊2日 信州 山の月間中
→天候不良のため登山中止。7/28（火）午前10時～正午に代替え座学を開催。
- ・場所：白馬大池周辺 →代替え座学は市立大町山岳博物館 講堂で実施。
- ・協力：長野県山岳総合センター・大町山岳博物館友の会
- ・参加者：代替え座学の参加者12人（大人）
- ・参加費：15,000円（交通費・宿泊費・保険料の実費を各自負担）
→登山未実施のため参加費の徴収はなし。
- ・概要：博物学にかかわる現地フィールドを学芸員らと一緒にたずねる1泊2日の登山。白馬大池など白馬連峰周辺の博物学にちなむ山岳文化史を紹介するとともに、山の地形・地質や高山植物、ライチョウなどの動物について解説を行うとともに、長野県山岳総合センターのスタッフにも講師として同行いただき、安全登山のアドバイスをしていただく予定であった。
→代替え座学として、現地で解説する予定だった内容について、スライドを用いて参加者へ解説を行った。
- ・所見：企画展に関連した現地探訪会を開催することによって、企画展全体の教育普及効果をより一層高めたいと考えた。探訪を通して、企画展の展示にかかわる人物と事柄や関係山岳地域の自然について詳しく知っていただく機会としたかった。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、宿泊する山小屋からの要請により、参加者にシュラフや消毒用品等の個人装備を持ち物に加えた。今後の改善点として、キャンセル待ちでの参加申込受付など、柔軟な対応を検討したい。また、雨天対

策について十分に検討を重ねたい。中高年齢層の参加者が大半であり、新型コロナ対策の新しい登山様式が求められる中、今回は参加者から事前に登山歴や健康状態の問診を提出していただいた。今後も登山引率にはさらに十分配慮し、緊急連絡カード提出や遭難救助に対応した山岳保険の加入有無の確認など、一層の安全対策に努めて十分な実施体制で集団登山を実施する必要がある。

ウ ワークショップ「一壘百験 一山のミニ科学実験教室」(担当：関悟志)

※「こども夏期だいがく」に位置付けて実施

- ・開催日：令和2年8月1日(土) ※夏休み期間中
- ・時間：午前9時30分～正午
- ・場所：市立大町山岳博物館 講堂
- ・協力：大町エネルギー博物館
- ・参加者：小学生30人 ※参加費無料
- ・概要：大町エネルギー博物館学芸員を講師に迎えた科学教室。高い山でおこるふしぎな現象を再現して、その仕組みのなぞを解き明かした。夏休みの自由研究にも最適であった。
- ・所見：企画展に関連したワークショップを開催することによって、企画展全体の教育普及効果をより一層高めたいと考えた。実施にあたっては、夏休みの自由研究にも採用できるよう、夏休み期間中の小学生を対象とした催し「さんぱく こども夏期だいがく」に位置づけた。ワークショップを通して、高い山でおこる自然現象の仕組みを知っていただく機会とした。申し込み締め切りの1週間ほど前までには定員に達し、事業目的の対象者の興味・関心をひくことができたと考え。広報に関して、市内小学校の全児童宛てのチラシ配布直後、申し込みが集中したことから、こうした告知・周知方法は効果が高かった。ただ、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、夏休み中の各家庭で県外などへの遠出を控え、近場での催しに参加する傾向が影響したものとも推測される。

エ さんぱくゼミナール「信州の教育者・地質学者 保科百助

—明治期を駆け抜けた唯一無二の奇才 五無齋にせまる—(担当：関悟志)

- ・開催日：令和2年9月20日(日)
- ・時間：午後1時30分～午後3時
- ・場所：市立大町山岳博物館 講堂
- ・講師：五無齋保科百助研究会 村田長年氏
- ・参加者：41人(大人) ※参加費無料
- ・概要：信州の教育者・地質学者の保科百助(号・五無齋)について造詣の深い五無齋保科百助研究会の村田長年氏を講師にお招きした講演会。明治期を駆け抜けた唯一無二の奇才と称される保科百助について、その人物像やエピソード、後世に残したその功績などをお話しいただいた。
- ・所見：企画展に関連した講演会を開催することによって、企画展全体の教育普及効果をより一層高めたいと考えた。講演を通して、企画展の展示にかかわる人物と事柄について詳しく知っていただく機会とした。当初、企画時点ではより多くの方々に気軽に参加していただけるように申し込み不要の催しとして初期の広報を開始したが、新型コロナウイルス感染症対策のため、事前申し込み制に途中変更した。当日は参加者にはマスク着用での来場を事前にお願ひし、受付時には健康状態の確認と手指消毒にご協力いただいた。講演の最中には、窓を開放するとともに扇風機を複数台稼働し、換気を行いながら開催した。また、講師にはフェイスシールドを着用してお話しいただいた。当日は4連休の中日かつGoToトラベルキャンペーンの実施もあいまって、博物館の一般観覧者の来館が多数あり、大町公園の駐車場は午前中から満車に近かった。今回の催しのように、ある程度多数の参加者が来場する催しについては、事業実施日の一般観覧者の入り込み状況等をふまえ、駐車場整理の対応を事前に検討する必要がある。また、不測の事態にも対応できるよう、出勤可能な最大数の職員が出勤するような勤務体制を組む必要があると感じた。今後は当日の実施体制についても最善の策を講じたい。

h. 関連印刷物

広報用リーフレット(A4判、両面カラー)5,000部、企画展解説書500部(関係先配布ほか、印刷実費相当額にて一般頒布)、広報誌『山と博物館』特集記事掲載1,000部などを印刷した。

③「雪が織りなす物語」(担当：鈴木啓助)

- a. 会期：令和2年10月3日(土)～令和3年1月17日(日) ※開催日数：延べ107日間
- b. 会場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概要：北アルプスに大量の雪を降らせる気象条件と地理的な位置を説明し、降雪、積雪から融雪に至る物理・化学両面の過程を解き明かすとともに、山と水に恵まれた大町の象徴である雪にまつわる物語を紡いでいく。

d. 展示構成：雪は、地球上の水循環に大きな役割を果たすことや、わが国が豪雪地帯となる地理的な位置について解説した後、雪結晶が形成される際の温度と水蒸気量によって結晶形が決まったり、雲の対流活動の度合いによって化学成分濃度が変化することを説明する。雪は積もってからも様々に変化し、北アルプスに降る大量の雪は水資源として極めて貴重で、大町市内のカクネ里にも氷河が現存する。しかし、大量の雪は時に災害になることもあるという流れで展示を構成した。

ア 第1章 雪が降る星：地球 地球は、水が3相で存在できる特殊な惑星。それが、雪を降らせる条件。

イ 第2章 地球を巡る水：水循環 雪は、地球の豊かな水循環の大きな担い手である。

ウ 第3章 世界有数の豪雪地 緯度も標高も低い日本が豪雪地となるのは、シベリア高気圧、チベット・ヒマラヤ山塊、日本海、脊梁山脈の絶妙な配置による。

エ 第4章 美しい雪結晶 六花と呼ばれるように、雪は六角形を基本としているが、それぞれの結晶形は、成長する際の温度と水蒸気量によって決まる。

オ 第5章 雪は空の掃除屋さん 雪が降った後は遠くがスッキリと見透せるのは、雪が大気中の塵や埃を付着して降ってくるからである。

カ 第6章 雪に書かれた手紙文 結晶形が雲の温度と水蒸気量で決まることを「雪は天から送られた手紙」と言われるが、雪の化学成分を調べることによりその時の気象条件がわかる。

キ 第7章 雪の七変化 降ってきた雪が積雪になると、雪結晶が新雪からしまり雪・ざらめ雪・しもざらめ雪などに変態していくが、その過程で結晶内の化学成分の配置も変わっていく。その結果、融雪水中の化学成分濃度は高くなり、pHは低く酸性になる。

ク 第8章 天然の白いダム 高瀬川の流量は、5月から7月にかけて降雨量に比べて格段に多くなるが、これは流域内に冬期間に大量に積もった雪が融けたためである。

ケ 第9章 北アルプスの氷河 鹿島槍ヶ岳北峰から北東にのびるカクネ里に氷河が現存する。雪氷の涵養と消耗の微妙なバランスのうえに存在している。

コ 第10章 大町での56豪雪 1980年(昭和55)から1981年にかけての冬は日本海側地方で豪雪となったが、大町でも年末に大量の雪が降り、大きな災害となった。

e. 観覧者：4,486人

f. 所見：アンケート結果によると、約9割の方が市外からお出でになっていた。また、4割を超える方が企画展見学のために来館したと回答していただき、雪に対する関心の高さをうかがい知ることができた。ただ、子供には難しかったとのご意見も頂戴した。展示内容を絵本にした「ゆきんこのたび」をパネルにし、展示内容の一部とする方法もあったと反省している。普段でも冬期には観覧者が減少するが、平均すると1日当たり42人に観覧頂いたことは、冬期の企画展として一定の効果があったものと評価できる。

関連事業

ア ミュージウムガイド(担当：鈴木啓助)

- ・開催日：令和2年10月4日(日) ※初日翌日
12月20日(日) ※家庭の日
1月17日(日) ※最終日

・時間：各日とも10時30分～14時30分～ 各回1時間程度

・場所：市立大町山岳博物館 特別展示室

・参加者：延べ参加者88人

・概要：担当者が展示の見どころなどを解説。

イ さんばくゼミナール「雪が織りなす物語」(担当：鈴木啓助)

・開催日：令和2年11月15日(日)

・時間：13時30分～14時30分

・場所：市立大町山岳博物館 講堂

・講師：鈴木啓助

・参加者：39人 ※参加費無料

・概要：展示内容に沿って、写真や図表を使いながら鈴木が説明した。

(3) さんばく研究最前線 —北アルプスの自然と人 トピックス— (担当：清水隆寿)

山岳博物館2階ホールにおいて、博物館からの最新の研究成果や話題性のある情報をパネルにして、3ヶ月ごとに内容を入れ替えながら、来館者の皆様に展示をご覧いただくコーナーとして、平成26年の展示改修より開始されたパネル展示。博物館での展示が終了しだい、大町市役所1階市民ホールにて約2週間それぞれ同パネルの出張展示(移動展示)を市民対象に実施した。

なお、パネル展にあわせて、展示期間中に発行する広報誌『山と博物館』に展示内容を紹介する特集ページを掲載し、展示をご覧いただけなかった方々にも情報提供を行った。

①テーマ「大町の気候はどうなるのだろうか？」 (担当：鈴木啓助)

a. 会 期：当館2階ホール展示 令和2年4月1日(水)～6月30日(火)

市役所 市民ホール展示 令和2年8月10日(月)～21日(金)

b. 掲載誌：『山と博物館』2020春号(第65巻第1号)

②テーマ「機能から考える花のつくり—サワギキョウ—」 (担当：千葉悟志)

a. 会 期：当館2階ホール展示 令和2年7月1日(水)～9月31日(木)

市役所 市民ホール展示 令和2年11月2日(月)～13日(金)

b. 掲載誌：『山と博物館』2020夏号(第65巻第2号)

③テーマ「戦後75年に際して 収蔵資料から見る戦時下の登山—北アルプスに駆けた“小伝令使”伝書鳩を使った山岳通信—」 (担当：関悟志)

a. 会 期：当館2階ホール展示 令和2年10月1日(火)～12月27日(日)

市役所 市民ホール展示 令和3年3月15日(月)～26日(金)

b. 掲載誌：『山と博物館』2020秋号(第65巻第3号)

④テーマ「2014年神城断層地震による甚大被害の地質的な要因」 (担当：太田勝一)

a. 会 期：当館2階ホール展示 令和3年1月5日(火)～3月31日(水)

市役所 市民ホール展示 令和3年4月5日(月)～16日(金)

b. 掲載誌：『山と博物館』2020冬号(第65巻第4号)

(4) 移動展示

①「第16回 安曇野アートライン展」への参加と協力 (担当：清水隆寿)

a. 会 期：令和2年11月21日(土)～12月20日(日)

b. 会 場：国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区 あづみの学校多目的ホール(安曇野市)

c. 概 要：安曇野アートライン推進協議会加盟の美術館・博物館の作品や紹介パネル等を一堂に展示し、各館所蔵の芸術作品の鑑賞及び出展館の由来や歴史などを通してアートの世界を体感していただいた(主催：アルプスあづみの公園マネジメント共同体、共催：安曇野アートライン推進協議会)。また、本展開催期間中、あづみの公園とアートライン加盟館の利用促進を目的として、各館を巡る「アートライン・スタンプラリー」を実施。本年度、当館からの出品作品は、川又啓一氏の「雪形切り絵」6点を出展。また、スタンプラリーにも参画し、景品として山岳博物館無料入館券を提供。なお、会期中の入場者数は7,816人(平日平均129人・土日祝日平均535人)であった。

2 教育普及活動

(1) 学習会等の開催

①市立大町山岳博物館主催 大町山岳博物館友の会 共催事業

令和2年度 大町山岳博物館友の会 総会記念講演会

「大町市にみる岳・野・湖・山」(担当：千葉悟志)

a. 共 催：大町山岳博物館友の会

b. 開催日：令和2年4月18日(土)

c. 場 所：市立大町山岳博物館 講堂

d. 対 象：大町市民・友の会会員 大人～子ども 定員50人

e. 講 師：矢野孝雄氏

f. その他：令和2年度の山岳博物館友の会総会記念講演会として計画を立案したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を中止することとした。来年度の総会に事業に延期とする。

②ふぞくえんまつり（担当：栗林勇太・藤田達也・遠藤モナミ・小里玲奈・唐澤紗波・辰己萌恵）

以下の日程で実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により全国に緊急事態宣言が発令され、収束の目途が立たないことから本年度は中止とした。

a. 会 期：令和2年5月2日（土）～5月6日（水・祝）

b. 会 場：市立大町山岳博物館 付属園

c. 概 要：展示動物を絵柄にした手作りスタンプを押して集める「ふぞくえんクイズ&スタンプラリー」、展示動物を解説しながら園内を巡る「どうぶつ観察ツアー」、鷹狩山の動物の痕跡などを探す「鷹狩山どうぶつ探索ツアー」ライチョウの生態や保全について解説を行う「ライチョウガイド」、幅広い層にカモシカに興味を持っていただく「おまびよんと遊ぼう」、工作体験を通し動物に関心をもってもらう「ワークショップ ライチョウ・カモシカをつくろう」の6つの催しを予定していた。山岳博物館では、開館間もない昭和28年頃から動植物を飼育栽培する付属園（動植物園）を屋外に併設し、希少野生動植物の保護増殖や調査研究を行うとともに、北アルプスの山麓から高山に生息する生物を飼育栽培して、生体展示などの教育普及を行っている。また、平成9年度から大北地域周辺の野生傷病鳥獣を救護収容している。付属園にかかわる市民対象の各種催しを実施する期間を「ふぞくえんまつり」と称して各催しを実施することで、付属園と飼育動物を身近に感じ、親しみを持っていただくとともに、傷病鳥獣の救護などの活動についても広く周知し、付属園の役割について理解を深めていただいた。これにより、大町市周辺地域の野生動物や自然環境への関心を高めていただくことを目的とした。

e. 所 見：次年度は新型コロナウイルスの感染状況も見ながら、感染防止に努められる内容での実施を検討したい。

③さんぱくこども夏期だいがく

「ワークショップ「一壘百験 一山のミニ科学実験教室」」（担当：関悟志）

※企画展「博物学と登山」関連事業のワークショップとして実施。概要及び所見については前項に記載した通り。

・開催日：令和2年8月1日（土） ※夏休み期間中

・時 間：午前9時30分～正午

・場 所：市立大町山岳博物館 講堂

・協 力：大町エネルギー博物館

・参加者：小学生30人 ※参加費無料

④自然ふれあい講座 みんなで温暖化ウオッチ「セミのぬけがらを探せ！」（担当：栗林勇太）

（「長野県環境保全研究所 令和2年度自然ふれあい講座」を兼ねて開催）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため一般参加を中止、調査のみ主催者で行う。

a. 開催日：令和2年8月4日（火）

b. 共 催：長野県環境保全研究所

協 力：自然観察指導員長野県連絡会、セミの抜け殻しらべ市民ネット

c. 場 所：大町公園周辺 及び 当館 講堂

d. 参加者数：大人10人（博物館実習生6人）

e. 概 要：長野県内で身近なところで起きている自然の変化の記録を持ち寄り、本当に温暖化などの変化が起きているのかを、セミの抜け殻を探す調査や観察を通して、地球環境の在り方を考えていただくことを目的に例年開催している。本年度も大町市以外に長野県下5ヶ所（長野市・上田市・松本市・伊那市・飯田市）にて同様の調査を継続している。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一般参加を中止したが、継続的なモニタリングが必要であることから、長野県環境保全研究所職員、博物館実習生及び当館職員で、大町公園内でセミの抜け殻を回収し同定を行った。

f. 所 見：本年新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一般参加は中止となったが、継続してモニタリングすることで温暖化の影響を把握ができることに加え、子どもに自然への関心を持って

らうための有効な手段であることから、次年度以降も継続して実施していきたい。

⑤バックヤード見学会「なにがあるのかな？博物館収蔵庫・図書資料館を見て回ろう！」

(担当：千葉悟志、太田勝一、関悟志、栗林勇太)

- a. 開催日：令和2年9月22日（火・祝）
- b. 時間：10時30分～正午
- c. 協力：大町博物館友の会
- d. 会場：博物館収蔵庫ほか
- e. 対象：小学生～大人 15人 参加費無料
- f. 概要：当初、20名の募集としたが、新型コロナウイルス感染症対策として、3密を避けるため、15名で募集を止め、2グループに分けて実施した。当日は参加者にはマスク着用での来場を事前にお願ひし、受付時には検温、健康状態の確認と手指消毒にご協力いただいた。

人文科学系と自然科学系の担当者が総出で実施したことから、参加者の資料収集保管事業に対する理解関心は高めることができたと思われる。アンケートを実施していないため、推測にすぎないが、友の会会員の参加が少なく、一般の方の参加が多かったほか、新型コロナウイルス感染症対策として参加人数を当初の募集よりも制限したことを考慮すれば達成率は数字以上のものであったと推測される。また、各分野に与えられた時間が15分程度であったことと、移動時間を要したことから参加者からは、実施時間が短かったとの感想が寄せられた。今後は各分野に絞って行うことでより高い理解関心を得られるものと思われ、検討する必要がある。

⑥研究報告&座談会

「山のサイエンスカフェ in さんぱく 2021」さんぱくゼミナール (担当：関悟志・栗林勇太)

- ・開催日：令和3年3月7日（日）【前期】・14日（日）【後期】
- ・時間：前・後期両日とも 午後1時30分～午後4時
- ・場所：市立大町山岳博物館 講堂
- ・参加者：【前期】32人（大人）、【後期】27人（大人） ※参加費無料
- ・研究報告：【前期】「爺ヶ岳の雪形伝承と山名由来」（関）、「希少動物を守るには？～ライチョウ保全の最前線と博物館の役割～」（栗林）、「気候変動はなぜ起こる？」（鈴木）
【後期】「花と昆虫、ふしぎな関係にせまる」（千葉）、「センサーカメラを用いた野生動物の観察～大町市内の野生哺乳類のいま～」（藤田）、「佐野坂丘陵と青木湖の成立ちをさぐる」（太田）
- ・概要：当館の調査研究事業について、具体的な内容を市民や地域住民にわかりやすくお伝えすることにより、その学術的な価値を広く社会に認知してもらい、地域における山岳文化の醸成に結びつける目的で今年度初めて企画・開催した。当館の職員が前年度の『研究紀要』誌上で発表したり、当年度の「さんぱく研究最前線」でパネル展示を行ったりした北アルプス周辺地域の自然科学と人文・社会科学の諸分野における調査研究、あるいは収蔵資料に関する各種情報等について研究報告・話題提供を行った。あわせて、これらの報告や話題をふまえ、参加者全員による座談会を行い、北アルプスの自然や歴史について自由に意見交換を行った。自然と人が共生する「山岳文化都市」大町市の中核である山岳博物館において、北アルプスの山と生きものと人の関わりをみんな学び、考えた。なお、本催しは冬期間の博物館利用者数の増加へつながるように、前期・後期の2回にわたって2週連続で実施した。
- ・所見：当初計画では、参加費200円（山博友の会から協力いただける場合は無料）として参加者向けに茶湯の提供を行い、後半の部分はワールド・カフェ形式により、前半の講演の内容等をふまえ、茶湯を飲みながら参加者全員で自由に意見交換を行う予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、茶湯の提供は行わずに参加無料とし、前半の報告の時間を増やして後半の座談会の時間を減らすなどのタイムスケジュールの変更を行った。また、ワールド・カフェ形式に用いる予定であった消耗品の購入を取りやめた。その他、同感染症対策のため、当日の参加者にはマスク着用での来場、受付時に手指消毒と検温にご協力いただいた上、座席となるイスは十分に間隔をとりながら設置するとともに、休憩時には窓を開放して換気を行ない開催した。

⑦令和2年度おおまち再生プラン～新型コロナ克服戦略

「今年の夏休みは山博であそぼ〜う！」（担当：清水隆寿）

- ・開催日：令和2年8月1日（土）～18日（火）〔開催日数14日間・15講座を計画〕
- ・時間：開催時間は、下記のとおり。2時間程度を目安に開催。
- ・場所：市立大町山岳博物館 講堂ほか
- ・参加者：大人209人、子ども68人 総計277人 ※参加費無料
- ・目的：大町市では新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、全市をあげて失われた穏やかな暮らしや、まちの活気を取り戻すために「おおまち再生プラン～新型コロナ克服戦略」の施策を打ち出し、新型コロナの出口戦略として地域経済等の再生に向けた施策を実施していくこととなった。山岳博物館では、このロードマップに従い本年度は「博物館を活用した自然や科学の体験教室等の開催」を計画し、具体的なアクションプランとして実施した。
- ・概要：コロナウイルス禍の中、市内小学生の夏休みは例年よりも短く、学外での体験学習や遊びの体験が十分でないことが予想され、山岳博物館では夏休み期間中を利用し、市内小学生を対象に楽しく遊び感覚で学べるプログラム「博物館を活用した自然や科学の体験教室」を開催した。期間中のプログラムは企画展に絡めたものなど合計延べ14日間・15プログラムを企画し、事前に市内小学校にチラシを配布し申し込みをしていただき開催した。各日の内容は以下の通りである。
- ・内容：①8月1日（土）9:30～12:00 「ワークショップ こども夏期だいがく「山のミニ科学実験教室」」参加者：大人8人、子ども30人 講師 大町エネルギー博物館 上原達宏氏
②8月2日（日）13:00～14:30 「土器でドキドキしょう～縄文人の土器や石器をさわってみよう」参加者：大人3人、子ども5人 講師 清水隆寿
③8月5日（水）「すごいぞ信州の山シリーズ ライチョウのお話」中止→リモート配信。
参加者：大人0人、子ども0人 講師 栗林勇太
④8月5日（水）「水辺の生き物を探そう」コロナウイルス感染拡大防止の為中止
参加者：大人0人、子ども0人 講師 栗林勇太・藤田達也
⑤8月5日（水）「夜の山岳博物館」コロナウイルス感染拡大防止の為中止
参加者：大人0人、子ども0人 講師 栗林勇太・藤田達也
⑥8月6日（木）「鷹狩山自然探検隊」コロナウイルス感染拡大防止の為中止
参加者：大人0人、子ども0人 講師 清水隆寿・栗林勇太
⑦8月8日（土）「地震のしくみ ～地面が揺れる謎～」
参加者：大人4人、子ども0人 講師 太田勝一
⑧8月9日（日）「レッツ バードウォッチング～双眼鏡を覗いてみよう～」
参加者：子ども0人 講師 藤田達也
⑨8月10日（月）「企画展 博物学と登山 ミュージウムガイド」
参加者：大人24人、子ども0人 講師 関悟志
⑩8月11日（火）「動物観察ツアー ～付属園の仲間を紹介するよ～」
参加者：大人9人、子ども1人 講師 藤田達也・飼育員（4名）
⑪8月13日（木）～14日（金）「剥製大公開～お宝を見せちゃいます～」
参加者：大人157人、子ども28人 講師 栗林勇太・藤田達也
⑫8月14日（金）「湿地の植物」
参加者：大人0人、子ども0人 講師 千葉悟志
⑬8月15日（土）～16日（日）「超！蝶観察会」
参加者：大人3人、子ども3人 講師 栗林勇太・藤田達也
⑭8月15日（土）～16日（日）「なんでも鑑定教室」
参加者：大人1人、子ども1人 講師 栗林勇太・藤田達也
⑮8月18日（火）「雪んこの旅 ～雪が降るって不思議なこと～」
参加者：大人0人、子ども0人 講師 鈴木啓介
- ・所見：コロナ禍にあって博物館として市民に対しどのような取り組みができるのか、それぞれの学芸員が知恵をしばり、使命感をもって取り組んだ。夏休みまでの期間がない中で、各人が内容を吟味し、チラシを配布し応募をしたが、周知の点で足りなかった課題が残った。また野外体験が少なく座学が多くなってしまったのは反省点であった。また子どもが夏休みといえども保護者による送迎が必要であり、その点で平日の参加者が少なくなってしまい今後の課題として活かしていきたい。

(2) 学校との連携・融合（調整：藤田達也）

期 日	内容 (館外の実施場所)	対象校・学年など	人数 (人)	指 導
5月21日	出張講座 自然環境行政入門ゼミ	信州大学全学教育 機構・ゼミ	20	栗林
5月21日	出張講座 環境と生活のかかわり	信州大学全学教育 機構・講義	100	栗林
6月10日	学校連携授業 市の様子	八坂小3年	7	関
6月10日	学校連携授業 昔の道具	八坂小3年	7	関
7月17日	学校連携授業 市の様子	大町南小3年	47	清水・関
8月28日	キャンプ学習 青木湖の自然	池田小5年	33	清水・千葉
9月3日	地球と郷土の成り立ち	美麻小4年	4	太田
9月4日	野生動物の調査 (指導)	八坂中1年	3	藤田
9月10日	出前授業 地質と鉱物	美麻小4年	3	太田
9月19日	出前授業 姫川～糸魚川海岸の岩石 の同定	山村留学センター	2	太田
10月7日	学校連携授業 動物	大町南小4年	47	藤田
10月7日	学校連携授業 百瀬慎太郎	大町南小4年	47	関
10月8日	出前授業 地質と化石	美麻小4年	2	太田
10月8日	館内案内	豊科南中2年	108	関
10月8日	館内案内	白馬南小2年	17	栗林
10月14日	出前授業 大地のつくりと変化	白馬北小6年	50	太田
10月15日	キャンプ学習 青木湖の自然	大町南小5年	39	藤田・栗林
10月16日	野生動物の調査 (指導)	八坂中1年	3	藤田
10月28日	出前授業 大地のつくりと変化	白馬北小6年	50	太田
10月30日	館内案内	更北中3年	28	栗林
11月2日	学校連携授業 市の様子	大町西小3年	47	関
11月5日	館内案内	白馬北小2年	61	栗林・藤田
11月5日	学校連携授業 大地のつくりと変化	大町北小6年	57	太田
11月6日	美麻の生き物について	美麻小3年	2	藤田
11月6日	大町市の自然環境の現状について	大町第一中2年	14	藤田・栗林
11月12日	出張講座 自然環境行政入門ゼミ	信州大学全学教育 機構・ゼミ	30	栗林
11月12日	出張講座 環境と生活のかかわり	信州大学全学教育 機構・講義	75	藤田
11月12日	学校連携授業 大地のつくりと変化	八坂小6年	9	太田
11月17日	学校連携授業 大地のつくりと変化	大町東小6年	32	太田
11月17日	学校連携授業 動物	大町北小4年	43	藤田
11月18日	学校連携授業 大地のつくりと変化	美麻小6年	12	太田
11月20日	学校連携授業 動物	大町西小4年	46	栗林
11月20日	学校連携授業 百瀬慎太郎	大町西小4年	46	関
11月24・25日	職業体験実習	白馬中2年	2	飼育員
11月25日	カナヘビの飼育方法について	美麻小2年	6	栗林
11月26日	学校連携授業 市の様子	大町東小3年	29	関
11月26日	学校連携授業 市の様子	大町東小3年	29	関
12月1日	博物館の取り組みについて	松本県高校	1	関・藤田

12月1日	学校連携授業 百瀬慎太郎	大町東小4年	23	関
12月2日	山の環境学	林業大学2年	20	鈴木・栗林
12月5日	ライチョウの保護について	松本県高校2年	2	栗林
12月6日	大町市の歴史について	松本大学3年	1	関
12月10日	学校連携授業 市の様子	大町北小3年	45	清水・関
12月10日	学校連携授業 昔の道具	大町北小3年	45	清水・関
12月17日	学校連携授業 動物	八坂小4年	6	藤田
12月17日	学校連携授業 百瀬慎太郎	八坂小4年	6	関
1月20日	ライチョウについて	大町岳陽高校2年	1	栗林
3月6日	ライチョウについて	大町岳陽高校2年	1	栗林
3月9日	出前授業 地球の贈り物	白馬北小5年	48	太田
3月19・26日	職業体験実習 動物飼育	美麻小5年	1	飼育員
実施回数：50回（延べ52日）		学校数：19校	人数合計：1,357人 （延べ1,360人）	

①「学校との連携授業」（市内小学校の博物館活用事業）（調整：藤田達也）

a. 実施日：上記のとおり ※6～12月の間に、市内6小学校により延べ20回実施

b. 場 所：理 科：2階「山と生きもの」「山の成り立ち」、付属園 ほか
社会科：1階「山と人」、3階「展望ラウンジ」

c. 参加者数：市内小学生 延べ730人（内訳：3年生256人、4年生264人、6年生210人）
※このほか各小学校教員先生方の引率あり

d. 概 要：学校教育と社会教育との連携・融合（学社連携・融合）推進のひとつとして、博物館の展示を利用した学校との連携授業を実施。平成22年度から2ヶ年、大町南小学校をモデル校に4年生の理科授業（動物）を年1回実施し、授業プログラムやワークシートを作成して検証・改良を行った。それをふまえ、平成24年度から新たに実施希望校を募り、市内小学校の博物館活用事業を本格実施している。平成29年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより、さらに実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざす。同時に、博物館の所蔵資料や専門員・学芸員といった職員を学校の授業で活用していただくことで、児童・生徒の学習理解度の向上が期待でき、市民により身近な博物館をめざす。

ア 連携授業 プログラム1 理科・4学年「生き物のくらし」「人の体のつくりと運動」
（学習素材：ライチョウ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ）

イ 連携授業 プログラム2 社会科・6学年「土地（大地）のつくりと変化」
（学習素材：化石、北アルプスの地形・地質）

ウ 連携授業 プログラム3 社会科・3学年「わたしたちのまち みんなのまち 一市の様子―」
（学習素材：床面地図（空からマップ）、3階からの展望（市街地周辺）など）

エ 連携授業 プログラム4 社会科・3学年「かわってきた人々のくらし ―古い道具と昔のくらし―」
（学習素材：山や雪にかかわる古い道具（民具）の展示）

オ 連携授業 プログラム5 社会科・4学年「きょう土を開く（きょう土に伝わる願い）」
（学習素材：地域の発展に尽くした先人・百瀬慎太郎）

カ 連携授業 プログラム6 社会科・4学年「わたしたちの県 一県の広がり・特色のある地いきと人々のくらし―」
（学習素材：床面地図（空からマップ）、3階からの展望（北アルプス後立山連峰周辺）など）

キ 連携授業 プログラム7 理科・4学年「天気の様子」
（学習素材：山岳博物館付属園の気温観測記録）

e. 所 見：平成22年度から2年の試行期間を経て、24年度から実施希望校を募って本格実施した事業である。26年3月の展示改修によって、これまで実施してきた理科・社会科の連携授業により一層対応した展示内容となっており、それに沿った形での授業の流れやワークシートの編集といった点について、改善を加えて実施している。29年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざした。

本年度、事業実施に際し、昨年度に引き続き市内小学校の理科担当教諭等が集まる市科学振興会理事會にて本事業の事前説明を行ったほか、市内校長会で説明依頼を行い、実施希望校の受け付けを行った。市内小学校全6校から希望があり、理科と社会科の授業を計20回実施し、延べ730人が参加した。新型コロナウイルスによる4月から5月までの休校により、授業の進捗への影響が発生したため、一部で実施がかなわないプログラムが生じた。しかし、全ての学校で、実施回数および参加人数が同等または増加した。

今後の改善点として、当館側の独善的な事業とならないように、事業実施後、児童の実際の反応を含めて内容を修正していくほか、担当教諭からの忌憚のない感想や意見・要望を伺う機会を設けることが必要と考える。ただし、新型コロナウイルスによる社会情勢の変化が続いていることを加味して、学校側に過度な負担を強いらぬ方法を検討しなければならない。

年度当初に事業説明のほか文書にて依頼を行ったものの、学校の実施時期が秋口に集中しており、担当教諭の失念などにより調整や説明を複数回にわたって行うことがあった。また、学校により昨年度実施されたプログラムが本年度実施されていないものも見られた。今後、実施回数の増加により当事業を浸透させていくためにも周知方法・周知の時期について検討していきたい。

(3) 博物館実習の受入（調整：藤田達也）

期 日	実 習 者	人 員	指 導
7月31日（金） ～8月5日（水） ※計6日間	東京農業大学 農学部 4年生 東京農業大学 地域環境学部 4年生 帝京科学大学 生命環境学部 4年生 信州大学 人文学部 4年生 美麻小中学校教師（八洲学園大学）	5人	鈴木・千葉・ 関・栗林・藤 田

博物館法施行規則第2条（博物館実習）第1項の規定にもとづき、学芸員の有資格者となるために大学で修得すべき博物館関係科目単位の一つである博物館実習を希望する大学生の受け入れを行った。当館での博物館実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、実習を実施した。教育普及を中心に資料整理や受付業務等の博物館業務全体について実習を行い、地方における地域博物館の役割を体験的に学習していただいた。

当館での実習志望の理由は例年と同様であり、「山岳」をテーマにした博物館である当館での実習を希望したため、全国的にもユニークなテーマの当館が実習先として学生に選ばれた結果である。また、学生が受け入れ先の博物館等を探すことは困難のようで、毎年受け入れ実績がある当館への学生のニーズは高いことがうかがえる。計画に基づき、一つの事業に限らず網羅的に博物館全体の業務を経験していただくことで、学芸員になるための単位取得のためだけでなく、博物館における多岐にわたる事業の理解と、地方における地域博物館の役割について深く理解していただけた。当館としては博物館実習を教育普及活動の一環として位置づけ、生涯学習支援・社会教育の推進につながるものとして実施している。また、学生へ指導することによって、自らが担当している業務について役割や意義をあらためて見直す機会にもなる。実施方法として、実習の実施に際して各担当者と調整し、実習期間中の1日ごとの詳細な学習計画を作成し、事前に実習生に送付したことで、指導担当職員と学生の両者で個々の実習日の概要について把握できたので効果的であった。

毎年、当館公式ウェブサイト担当学芸員によって、当館ウェブサイト上に実習生の感想を掲載している。サイトに掲載された過去の実習感想を読んで申し込みを行う学生が多く、今回の実習生も全員がこれらを読んでおり、実習館選定の判断材料のひとつとしていた。今年度も実習生に感想文を依頼し、サイトに掲載して広く周知・宣伝を行っている。

(4) 学習会等への協力（調整：関悟志）

期 日	内容（館外の実施場所）	主 催	人数（人）	指 導
5月12日	展示説明〈行政視察〉	山口県議会環境福祉委員会	13	鈴木・栗林
7月12日	展示説明〈日本勤労者山岳連盟自然保護講座〉	日本勤労者山岳連盟	15	清水・栗林
7月27日	展示説明	三越伊勢丹ニッコウトラベル	8	清水

7月28日	展示説明	JTBガイアレック	9	清水
8月1日	明科図書館ひまわり講座「北アルプスの山小屋」 (明科子どもと大人の交流学習施設ひまわり)	明科図書館	20	清水
8月4日	お話を聞く会「大町の自然と動物について」 (八坂小学校内 八坂児童クラブ室)	八坂児童クラブ	6	藤田・栗林
8月5日	「すごいぞ！信州の山シリーズ」2神の鳥・ニホンライチョウ保護の取り組み (長野県山岳総合センター)	長野県山岳総合センター (山岳博物館協力事業)	動画公開	栗林
9月5日	「すごいぞ！信州の山シリーズ」3「岳のまち おおまち」の登山史を紐解く (長野県山岳総合センター)	長野県山岳総合センター (山岳博物館協力事業)	動画公開	関
9月9日	白馬村文化財審議委員会視察 企画展展示	白馬村教育委員会生涯学習スポーツ課	9	関
10月4日	冒頭展示説明	春日部ハイキングクラブ	24	清水
10月7日	大北地区社会教育委員ブロック研修会視察 展示説明	大町市教育委員会生涯学習課	28	鈴木・栗林
10月8日	山岳博物館友の会サークル「山岳文化研究会」 「ボランティアの会」合同研修会事前学習会	山岳博物館友の会サークル「山岳文化研究会」	12	関
10月10日	テントフェア(大町公園) 講演イベント	木崎まちづくりラボ	32	鈴木
10月13日	展示説明(付属園含む)	伊那市 美篤公民館 女性教室	30	関
10月14日	冒頭展示説明	道新観光	22	関
10月14日	冒頭展示説明	森林林業振興会	27	栗林
10月16日	展示説明(御嶽山ビジターセンター(仮称) 整備事業の視察)	長野県地域振興局	5	鈴木・清水
10月17日	塩の道ちょうじや文化講座「地球規模の気候変動と大町の気候」(塩の道ちょうじや)	塩の道ちょうじや	10	鈴木
10月21・22・23日	ライチョウ飼育研修	長野市茶臼山動物園	1	栗林ほか
10月22日	展示説明	菘輪町公民館	25	清水
10月30日	唐松沢氷河と白馬連峰の雪渓を学ぼう！ (トークセッション コーディネーター) (白馬岩岳山頂スカイアーク)	白馬村教育委員会	100	鈴木
10月31日	展示説明・現地説明(山溪ツアー) (館内～鷹狩山)	まちづくり交流課定住促進係	19	清水
10月31日	冒頭展示説明	三越伊勢丹ニッコウトラベル	8	藤田
11月6日	展示説明(付属園含む)	ジャパンE0会(随行：まちづくり交流課)	13	関
11月8日	岩石同定会(講師：信大・高橋康氏)	育てる会	4	太田
11月20日	展示説明	スリーアール	14	千葉
11月29日	展示説明	穂高町公民館	9	清水
2月13日	講座「ゆきんこ2 南極の秘密」	大町山岳博物館友の会	16	鈴木
2月16日	展示説明	斎藤ホテル	9	栗林
2月20日	展示説明	斎藤ホテル	12	清水
2月25日	展示説明	斎藤ホテル	13	清水
2月27日	展示説明	斎藤ホテル	8	藤田
3月2日	展示説明(プレミアムクルーザーの旅)	三越伊勢丹ニッコウトラベル	7	清水
3月4日	展示説明	斎藤ホテル	3	千葉
3月9日	展示説明	斎藤ホテル	9	清水
3月11日	展示説明	斎藤ホテル	6	栗林
3月13日	展示説明	斎藤ホテル	8	関

実施回数：37回（延べ39日）	件数：26団体	人数合計： 554人
-----------------	---------	---------------

前記以外に、下記の各種事業に協力した。

①第19回 北アルプス雪形まつり（担当：清水隆寿）

第19回北アルプス雪形まつり開催に先立ち準備会が行われた結果、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、雪形まつりの中止が決定され、例年博物館が担当する雪形ウォッチング並びに写真展は開催されなかった。

②第10回 信州・大町 山の子村キャンプ〔福島の子ども保養プログラム〕（調整：清水隆寿）

本年度も福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能の汚染被害を受けている子ども達に、心身の保養をしていただく環境を大町に整えて過ごすことを目的とした信州・大町 山の子村キャンプ実行委員会に共催として加わり、プログラムのサポートや資材等の支援を博物館として行う予定であったが、コロナウイルス感染拡大防止のために、本年度は中止とした。

a. 主 催：信州・大町 山の子キャンプ実行委員会（実行委員長 荒山雄大氏）

b. 共 催：大町市教育委員会（主管：市立大町山岳博物館）

c. 後 援：大町市、小形和夫氏、長野県労働金庫大町支店、北アルプス医療センターあづみ病院 ほか

③信濃大町 山フェス 2020（担当：関悟志）

新型コロナウイルス感染症の影響により本年度のイベントは中止となった。

山フェス（山岳フェスティバル）は「信州山の日」や国民の祝日「山の日」制定の趣旨にもとづき平成26年度からほぼ毎年行われ、昨年度までに4回開催されてきた。この催しは、信濃大町山岳フェスティバル実行委員会（事務局主管：観光課）の主催によるもので、毎年の実施にあたって当館では同実行委員会の実行委員として協力して取り組んできたが、来年度以降の同委員会の活動は休止とのこと。

④「YAMAP STUDIO」オンラインツアー動画配信（担当：関悟志）

山に関する各種情報を提供する無料動画チャンネル「YAMAP STUDIO」で、当館の常設展示を紹介するオンラインツアーをリアルタイムで配信した。同チャンネルは登山地図アプリ「YAMAP」を運営する株式会社ヤマップが新型コロナ対策として企画し、令和2年4月に立ち上げたもの。当館の臨時休館期間中、画面を通じて展示をご覧いただける良い機会となった。なお、この動画は4月30日のライブ配信以降、現在、アーカイブとして公開中で、無料動画共有サービス「YouTube」で閲覧可能（YouTubeチャンネルYAMAP STUDIO「山のバーチャルミュージアム#1 山岳博物館学芸員が解説！ 北アルプス登山史三大ミステリー」）。また、同オンラインツアーで紹介した内容の一部について、後日ヤマップから別途取材があり、その記事が同社運営のWebメディア「YAMAP MAGAZINE」に7月7日から掲載中（YAMAP MAGAZINE「北アルプス登山史の謎！ 戦国武将佐々成政の厳冬期「さらさら越え」に迫る」）。

(5) 博物館資料の特別利用（調整：関悟志）

①館内利用 6件（このほか、山岳図書資料の館内利用30件）

②館外利用 35件 ※内訳は下記のとおり（このほか、山岳図書資料の館外利用2件、長期貸出による館外利用4件）

期 間	目 的	利用 者	利用資料・点数
4月14日～	ウェブサイ ト掲載	ホテルルートイン信濃 大町駅前	館外観写真データ1点
4月29日～5月5日	CATV放送	合同会社GREEN	ライチョウ及びスバルバル ライチョウ（写真）
5月15日～6月15日	雑誌掲載	（株）エムシーエイ	ササユリ関係写真データ2点
6月～	専門誌掲載	個人	信越新道及び喜作新道関係 写真データ10点
6月9日～2月1日	TV番組放送	長野朝日放送	飼育ライチョウ（写真及び動画）
6月15日～	雑誌掲載	（株）山と溪谷社	茨木猪之吉絵画作品画像デー タ1点及びポジフィルム1点

6月17日～9月11日	企画展示	島田市博物館	オコジョ剥製及びライチョウ剥製 計4点
6月29日	新聞掲載	中日新聞長野支局	常設展示風景(1階展示室 大町組絵図展示コーナー)
7月～	パンフレット掲載	合同会社 Ferme36	研究紀要掲載 地質関係図データ1点
7月2日～8月2日	雑誌掲載	(株)プラネットライツ	百瀬慎太郎関係写真画像データ7点及び登山道具写真画像一式
7月7日～	メールマガジン掲載	(株)ヤマップ	木造大姥尊座像写真ほか画像データ3点
7月15日～	雑誌掲載	(株)山と溪谷社	中村清太郎絵画作品及び肖像画像データ 計4点及びポジフィルム1点
8月12日～	情報交流誌掲載	富山県[立山博物館]	山縣一雄使用オーバー手袋(立教大学山岳部ナンド・コート初登頂時使用)
8月21日～11月23日	企画展示	黒部市歴史民俗資料館	野口たいら山杣頭口上書写真画像データ5点
10月3～17日	調査研究	個人(一橋大学大学院学生)	雑誌『歩行』
11月～	SNS 掲載	個人	常設展示風景及び付属園飼育動物の写真
11月～	写真集製作及び販売	個人	ニホンカモシカの写真(常設展示の剥製及び付属園飼育個体)
11月15日～	雑誌掲載	(株)ネイチュアエンタープライズ	中村清太郎絵画作品画像データ1点及び肖像写真データ1点
11月11日	授業教材	大町西小学校	百瀬慎太郎関係写真画像データ7点ほか一式
1月～	宝くじ社会貢献広報活動紹介VTR放映	(株)C. A. L	飼育ライチョウ(動画及び写真)
1月1日～	機関紙掲載	(一社)長野労働基準協会連合会	ニホンカモシカの写真データ3点
1月10日～	雑誌掲載	(株)山と溪谷社	北アルプスの雪形写真及び図画像データ12点
1月9日～	雑誌掲載	(株)山と溪谷社	ニホンカモシカ関係写真データ8点
1月20日	課題研究の参考文献	個人(大町岳陽高等学校生徒)	ライチョウ関係図書1点
2月15日	園内の案内看板掲載	札幌市円山動物園	アカハライモリ等の写真データ7点
2月15日	園内の案内看板掲載	札幌市円山動物園	ニホンカモシカ等の写真データ7点
2月17日	動画配信	長野県山岳総合センター	山岳関係写真データ6点
2月24日	TV番組放送	オフィス自由本舗	雪形の画像データ1点
2月25日	CATV放送	合同会社 GREEN	山岳関係写真データ6点
3月2日	動画配信	毎日放送	雪形の画像データ1点
3月25日	SNS 掲載	個人(NHKラジオ番組「マイあさ!」契約キャスターTwitter)	ライチョウの写真データ5点
3月25日	SNS 掲載	個人(NHKラジオ番組「マイあさ!」契約キャスターTwitter)	ライチョウの写真データ5点
3月26日	書籍掲載	個人	ライチョウ及びスパールバルライチョウの写真データ計4点

③長期貸出 4件

期 間	目 的	利用者	利用資料・点数
昭和 55 年 7 月 21 日～	常設展示	京都市動物園	カモシカ骨格標本 2 点
昭和 56 年 7 月 1 日～	教育普及	新潟県	ライチョウ剥製 2 点
平成 18 年 11 月 15 日～	常設展示	富山市科学博物館	ライチョウ剥製 1 点
平成 28 年 4 月 28 日～	常設展示	長谷川恒男記念庫	長谷川恒男使用登山靴 1 点

※これらのほか、報道機関・雑誌編集社などによる各種取材などがあり、随時これらに協力した。

なお、社会教育施設・研究機関・個人などによる各種照会については別途記載のとおり。

(6) 山岳図書資料館の利用 (担当：関悟志)

開館日数	利用者数※			資料閲覧	資料貸出		利用時間
	市内	県内	県外	件数	件数	点数	
278 日	3 人	19 人	8 人	28 件	2 件	7 点	計 39 時間 2 分
	計 30 人			計 30 件			

※資料閲覧と資料貸出との同時利用者を含む

(7) 各種照会 (レファレンス) (調整：関悟志)

社会教育施設や研究機関、個人等からの学芸関係の各種照会 (レファレンス) に対する参考調査業務として、各分野の学芸員や専門員等が回答して情報提供を行った件数は次のとおり。なお、ここに集約した各種照会の件数は、軽微なものを除いた主な学芸関係のみの実績である。

合計 57 件 (自然科学系 18 件、人文科学系 41 件)

※内訳は下記のとおり (上記内訳の 各分野の件数は重複の場合あり)

受付日	照会者	方法	目的	分野	照会事項 (概要)
4 月 3 日	黒部市歴史民俗資料館	電話	学術調査研究 (業務)	人文 (歴史)	大黒銅山等について
4 月 5 日	個人	電話	執筆	人文 (歴史)	ナイロンザイル事件について
4 月 9 日	商店	FAX	業務	自然 (植物)	居里谷湿原について
4 月 17 日	個人	葉書	個人学習等	人文 (歴史)	播隆上人について
5 月 4 日	個人	電子メール	個人学習等	自然 (植物)	唐花見湿原の植物について
5 月 13 日	個人	電子メール	個人学習等	自然 (植物)	ケシ科の植物について
5 月 20 日	個人	電子メール	学術調査研究	人文 (歴史)	登山案内人組合について
5 月 27 日	個人	来館	執筆	人文 (歴史)	上條嘉門次について
5 月 30 日	個人	手紙	寄贈打診	人文 (歴史)	山岳図書について
6 月 22 日	個人	電子メール	個人学習等	自然 (植物)	高山植物の名称について
6 月 24 日	和歌山大学	電子メール	学術調査研究	自然 (地質)	北アルプスの地質図データについて
6 月 29 日	個人	手紙	寄贈打診	人文 (歴史)	近世林業史の文献について
6 月 30 日	個人	電子メール	学術調査研究	人文 (歴史)	日本アルプスの絵葉書について
7 月 16 日	個人	電子メール	個人学習等	自然 (植物)	高山植物の名称について
7 月 17 日	大町市立図書館	電話・電子メール	学術調査研究 (業務)	人文 (歴史)	明治期の登山関連の新聞記事について
7 月 17 日	富山県山岳連盟	電子メール	蔵書確認	人文 (歴史)	山岳図書資料の収蔵状況について
7 月 27 日	個人	電子メール	執筆	人文 (民俗)	ワカンジキについて
7 月 27 日	個人	電子メール	寄贈打診	人文 (歴史)	登山道具について
8 月 26 日	個人	電子メール	個人学習等	自然 (動物)	ネパールの鳥類について
8 月 31 日	個人	電子メール	個人学習等	自然 (植物)	高山植物の名称について
9 月 3 日	個人	電話	個人学習等	人文 (歴史)	当館の人文科学系刊行物について
9 月 6 日	個人	電話	寄贈打診	人文 (歴史)	山岳図書について

9月8日	個人	電子メール	学術調査研究	人文(歴史・民俗)	後立山連峰の名称由来について
9月16日	安曇野市教育委員会教育部文化課	来館	学術調査研究(業務)	人文(歴史)	小林喜作について
10月13日	中日新聞松本支局	来館	業務	人文(歴史・民俗)	白馬岳の山名呼称について
10月14日	個人	電話	個人学習等	自然(植物)	植物の種名について
10月14日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	山名と雪形、渡邊敏記恩碑について
10月23日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	虫こぶ(虫えい)について
10月25日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	伊藤孝一映像について
10月27日	大町岳陽高校(生徒4人)	来館	学業	自然(植物)	外来植物について
10月28日	個人	来館	個人学習等	人文(その他)	山座同定について
11月10日	個人	来館	個人学習等	人文(その他)	山座同定について
11月10日	個人	電話	個人学習等	自然(動物)	涸沢に生息する鳥について
11月12日	富山県[立山博物館]	来館	業務	人文(歴史・民俗)	山岳・民俗資料の整理・登録について
11月15日	中日新聞大町通信局	電話	業務	自然(動物・植物)	北アルプス山麓の動植物について
11月18日	トレイルブレイズハイキング研究所(社)	来館	業務	人文(その他)	大町市における山岳関係の取り組みについて
11月25日	個人	来館	個人学習等	自然(動物)・人文(歴史)	キザキコミズシタダミとカワシンジュガイ、登山史(遭難史)について
12月1日	個人(大町市観光協会経由)	電子メール	個人学習等	自然(植物)	大町霊園の桜について
12月1日	松本県ヶ丘高校(生徒1人)	来館	学業	自然(その他)	小規模ミュージアムネットワークについて
12月6日	松本大学(学生2人)	来館	学業	人文(歴史・その他)	山岳や大町市の歴史について
12月9日	個人(大垣山岳会・日本山岳会会員)	電話	その他(編集・出版)	人文(歴史)	播隆上人について
12月11日	南アルプス市立図書館	電話	業務	人文(歴史)	W・ウェストンについて
12月25日	冷池・種池・新越山荘	来館	業務・個人学習	人文(歴史)	山名呼称について
1月6日	映像制作会社テレコムスタッフ	電話	業務	人文(歴史・その他)	日本アルプス等の命名者について
1月13日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	ピッケルの打刻銘について
2月5日	個人	電話	個人学習等	人文(歴史)	山岳図書資料の収蔵状況について
2月11日	個人	電子メール	個人学習等	人文(歴史)	ピッケルの部位について
2月17日	善光洞 山崎書店	電話	業務	人文(歴史)	企画展解説書について
2月22日	市民タイムス	電話	業務	人文(その他)	雪形について
2月23日	個人	電話	個人学習等	自然(地質)	地震について
2月23日	個人	電話	個人学習等	人文(歴史)	ウェストンレリーフのレプリカ(ミニチュア)について
2月24日	個人	電話	業務	人文(歴史)	鷹狩山に関する文献について
2月25日	個人	電話	その他(寄贈打診)	人文(歴史)	ピッケル寄贈の打診について
2月26日	個人	電話・その他(直接)	業務・学術調査研究	人文(歴史)	北アルプスの山名由来に関する文献について

3月5日	毎日新聞	電話	業務	人文(歴史・美術)	槍ヶ岳の山名について
3月9日	和歌山大学 (学生)	来館	学業	自然科学(植物・ほの他)・ 人文科学(歴史・その他)	北アルプスの自然や人とのかわり、中部山岳国立公園の管理などについて
3月19日	個人	電話	個人学習等	人文(歴史)	喜作新道の命名者について

3 執筆・出版

(1) 出版

①出版物

a. 広報誌『山と博物館』(担当：藤田達也)

本誌は、当館創立5年後の昭和31年2月20日「やまと博物館」として第1号を創刊。当初は当館後援会発行による有料による月刊の発行物として、旬の話題や保護動物の紹介、博物館の出来事などの記事を掲載していた。その後、「山と博物館」に改称。当館発行の月刊機関誌として位置付けられるようになり、各分野の専門家や職員等による学術色の濃い読み物的な内容の文章を掲載するようになる。時代を経るにつれ、前述のような内容の紹介に誌面を多く割くようになったが、平成26年3月の展示改修によるリニューアルオープンを機に、創刊当初に立ち返り、博物館の動きや北アルプスの話題などをより分かりやすく、より広くお伝えしようと考え、本誌の編集方針を大幅に見直して誌面を刷新。第59巻第3号(2014年4月号)から、無料の広報誌として位置づけて発行することとした。これは平成27年度の『研究紀要』創刊を見越して学術的な文書の掲載はそちらに譲り、速報的なお知らせ等は平成26年3月の展示改修を機にサイトをリニューアルした公式ホームページを最大限に活用するといった広報・宣伝を含め、館全体の情報発信体制を見直す中でのことであった。平成30年度からは、これまでの月刊から季刊に変更、夏・秋・冬・春の年4回とし第63巻第4号(2018夏号)から第64巻第1号(2019春号)を発行した。これは、大町市が山岳文化都市宣言のまちであることから、市民の皆様に当館をより身近に感じていただけるように、毎号の誌面を増やして今まで以上に内容を充実し、市内全戸の皆様方に配布することとしたことによる。

本年度は、第65巻第2号(2020夏号)〔発行日：令和2年6月25日〕、同第3号(2020秋号)〔発行日：令和2年9月25日〕、同第4号(2020冬号)〔発行日：令和2年12月25日〕、第66巻第1号(2021春)〔発行日：令和3年3月25日〕を編集・発行した。

各号の発行部数：10,500部、体裁：A4判、8頁、カラー刷り。毎号、『広報おおまち』とともに組み込み文書として市内全戸へ配布し、市内の小中学校や社会教育施設・文化施設等へ配布・設置したほか、県内外の関係者や関係機関等への配布を行った。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版(PDF)として公開中。

b. 『年報』(担当：下坂昌幸→清水隆寿)

『市立大町山岳博物館 令和元年度 年報』(発行日：令和2年6月30日、発行部数：200部、体裁：A4判、46頁、単色刷り)を編集・発行し、関係機関への配布を行った。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版(PDF)として公開中。

c. 『研究紀要』(担当：栗林勇太)

当館では、調査研究事業の一層の充実を図ることで、学術的な成果情報を資料収集保管事業や教育普及事業へ展開するという博物館活動の良好な循環体制の構築を進めるため、北アルプスと周辺地域の自然科学、人文・社会科学諸分野の調査研究に関する学術的な成果情報を収録する『研究紀要』を平成27年度に創刊した。

本年度、『市立大町山岳博物館研究紀要 第6号』(発行日：令和3年3月31日、発行部数：本誌500部・各抜刷計350部、本誌体裁：A4判・カラー、53頁)を編集・発行し、関係者や関係機関等へ配布した。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版(PDF)として公開中。

d. 学会・研究会等での発表

千葉悟志・藤田淳一・有川美保子・丸山優子「長野県大町市におけるスキー場駐車場に見る湿地の植物相について」. 長野県植物研究会誌 54: 21~23.

藤田淳一・井浦和子・中村千賀・千葉悟志・松田貴子「令和元年台風19号（Hagibis）後の千曲川氾濫原における植物相の回復状況」.長野県植物研究会誌 54：1～19.

②販売中の出版物（調整：清水隆寿）

現在販売中の当館編による出版物は以下の通り。 ※完売のもの除く（令和2年3月31日現在）

書名	発行先	発行年	備考
H27年度 企画展 北アルプス山麓の自然に蝶が舞う	市立大町山岳博物館	平成28年	館内にて販売中
常設展 山と人 北アルプスと人とのかかわり	〃	平成25年	〃
北アルプス登山史資料2 一白馬岳周辺登山史一	〃	平成24年	〃
H24年度 企画展 大地はなぞだらけ	〃	平成24年	〃
R2年度 企画展 博物学と登山	〃	令和2年	完売

4 広報・宣伝（調整：藤田達也）

博物館の施設利用案内や各種催し案内、博物館の活動紹介や魅力紹介を広く周知することで、より多くの方々に博物館を知っていただき、興味・関心を持っていただいて博物館を利用していただくため、公式ウェブサイトを管理（更新・充実）し、翌年度の年間行事予定のチラシを印刷・配布した。

公式ウェブサイトや公式SNSの管理のほか、年間行事チラシ印刷・配布を通し、博物館の認知度・関心度を高め、利用者増を図りたい。これにより、市民や地域住民、登山者や観光旅行者等のだれもが、いつでも、どこでも気軽に利用していただける場所として広く親しまれる博物館づくりにつなげ、地域における博物館の存在価値を一層高めていきたい。

ただし、広報・宣伝における効果的な情報発信の内容や手法等については今後検討し、常時見直していく必要がある。博物館全体の広報・宣伝（情報提供）体制を再確認し、より効果的な体制を構築することが急務。そのためにも、将来をみすえた博物館マネジメントを戦略的に進めることが重要。そのために、まずは現状を把握するため、観光施設としての面に重点を置いた市場調査の実施を検討することも一案と考える。

(1) 公式ウェブサイト管理（担当：藤田達也）

インターネット媒体として、公式ウェブサイト上の掲載情報について企画展等の開催等にあわせて随時更新を行った。 URL：<https://www.omachi-sanpaku.com>

なお、公式ウェブサイト以外にも、大町市や安曇野アトラインの公式ウェブサイトにおいて、各担当が必要に応じて情報発信を随時行った。より分かりやすいホームページにしていくために、次年度は、ホームページの構成などについて検討を行う。

(2) SNSを用いた情報発信（担当：藤田達也）

近年 SNS を用いた情報発信が企業などでも行われており、大町市でも文化会館や市民活動サポートセンターで運用が始まっている。当館では2019年5月から始めている Facebook ページの運用に加えて、twitter、instagram を2020年5月から開始した。

主にイベント情報の告知、収蔵品の紹介、館周辺環境に関する内容についての情報を発信した。より効果的な発信頻度や内容については随時検討を続ける。

SNSの種類	開始年月	フォロワー	年間更新回数	プレビュー数
Facebook（博物館）	2019年5月	132	48	6016
Twitter（博物館）	2020年5月	106	24	32,386
Twitter（付属園）	2020年5月	47	8	2,511
Instagram（付属園）	2020年5月	291	27	—

※2021年3月末日時点

(3) 年間行事チラシ印刷・配布（担当：藤田達也）

紙媒体として、博物館における翌年度の年間行事予定の情報等を掲載するチラシを印刷（15,000部、A4判ヨコ両面カラー3折）した。また、当該年度に入り、前年度に印刷した年間行事チラシを大

北管内の小中学校の全児童生徒を含め、県内外の関係各所に配布した。

なお、各催しの個別情報については、各担当から大町市の広報誌「広報おおまち」や子ども・親子向け情報誌「がったつうしん」（大町市子どもセンター編集・発行）によって市民や近隣地域住民向け、「情報提供書」によって市内・県内の各報道機関向けに情報発信を行ったほか、県内や全国の博物館関係誌や山岳関係誌等への情報発信を行うなどした。

(4) 観光施設としての各種照会等の対応（担当：藤田達也）

旅行案内雑誌等の観光施設を主とした記事掲載に関わる照会等について、情報提供や記事校正等の対応を随時行った。

5 大町博物館連絡会（担当：清水隆寿）

大町博物館連絡会は加盟館 10 館で構成。例年、会長は大町エネルギー博物館長、事務所（事務局）は当館が担っている。

当館では同連絡会加盟館（理事：館長、幹事〈事務局員〉：副館長）として理事会及び総会を準備・運営するとともに出席し、各種事業の企画立案・準備・実施に携わった。主な事業として、加盟館 10 館から会費、加盟外の 1 施設と日帰り温泉施設 9 施設から掲載協力金、大町市観光協会から印刷負担金を収納して「おおまち博物館めぐり案内図（2021 年版）」4 万 2500 部を印刷作成。近隣のホテル・旅館・観光案内所等に配布したほか、大町市観光課・観光協会を通じて県外での観光 PR イベントや旅行者・旅行業代理店業者向けの商談会などに提供し、誘客を図った。また、6 年目となった「おおまち博物館めぐりスタンプラリー」を 4 月 1 日から 11 月 30 日まで計画をしたが、実際には新型コロナウイルス感染症拡大防止ということで加盟館の休館が相次ぎ、第 2 波の収束をまって 9 月後半から 11 月 30 日まで実施した。この取り組みは、各館への周遊誘客につなげることで大町市を“博物館のまち”として周知する方策として一定の成果があり、さらにスタンプラリー参加者からも一定の評価を得ており今後も継続していく方針である。

なお本年度の連絡会総会及び理事会は、令和 2 年 10 月 6 日に山岳博物館講堂で開催、事業報告、会計監査報告、来年度事業計画及び予算などが話し合われた。

6 安曇野アートライン推進協議会 美術館・博物館部会（担当：鈴木啓助・清水隆寿）

安曇野アートライン推進協議会は、安曇野周辺の美術館・博物館等 19 館で構成。本年度、会長は白馬村長、事務局は白馬村教育委員会が担い（任期 2 年の 1 年目）、同協議会の実働を担う美術館・博物館部会の代表館は、北アルプス展望美術館が務めた（任期 1 年）。

当館では同協議会加盟館（幹事：館長、部会担当：副館長）として幹事会及び総会、部会会議（年間 5 回）に出席した。別記「第 16 回 安曇野アートライン展」（P7 参照）の各催しに参画した。しかし第 19 回 安曇野アートラインサマースクールについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐことから今年度は実施を見送った。また、アートラインマップやサマースクールチラシの編集発行・配布にかかわる事務作業を実施した。また学芸担当研修会「美術品の撮影方法」へ参加した。

7 大町山岳博物館友の会（担当：千葉悟志）

大町山岳博物館友の会は、会員の知識の向上をはかるとともに、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的とし、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加協力する団体である。

(1) 組織

①役員

- a. 会 長 宮澤洋介
- b. 副会長 丸山優子
- c. 運営部 部長：川崎 晃 副部長：宮田京子
部員：川崎祐子（会計担当）、丸山卓哉（編集担当）、仙波美代子、若林みどり、西田 均、有川美保子
- d. 事務局 鈴木啓助、清水隆寿、千葉悟志（主務）、関 悟志、栗林勇人、藤田達也

e. 監査 瀬戸口三栄子、園田弘美

f. 顧問 長沢正彦

②友の会会員 構成 (令和3年3月31日 現在)

会員種別	会員数	会員種別	会員数	会員種別	会員数
ファミリー会員	56 家族 (197 人)	個人会員	51 人	学生会員	0 人
賛助会員	1 団体・1 人	終身会員	2 人	名誉会員	1 人
合計	1 団体・252 人				

(2) 運営部

①運営部会 全 9 回開催 (会場：山岳博物館 講堂)

②行事 (主催事業)

実施日	参加者	行事名・実施場所など
令和2年4月18日(日)	中止	大町山岳博物館友の会総会 書面決議に変更
令和2年5月10日(日)	中止	探鳥会 in 大峰 講師：栗林勇太
令和2年7月11日(土)～ 7月12日(日)	募集人員 20 名 参加者数 8 名 参加率 40%	防災キャンプ in 山の子村 講師：宮澤洋介、丸山卓哉氏ほか
令和3年2月13日(日)	募集人員 20 名 参加者数 17 名 参加率 85%	ゆきんこのお話第2弾「南極の秘密」 場所：大町山岳博物館 講堂 講師：鈴木啓助氏

※参加者人数には、講師・スタッフを含む。

③協力

実施日	協力内容	行事名など
令和2年4月18日(日)	中止	山岳博物館友の会総会記念講演会 演題「大町市にみる岳・野・湖・山」 講師：矢野孝雄氏

(3) 広報・宣伝

①会報「ゆきつばき通信」

号数	発行日	主な内容
183号	令和2年6月21日(日)	(巻頭言)「コロナに右往左往させられている中で」 (行事案内)「防災キャンプ in 山の子村」 (報告)「令和2年度総会について」、「会員からのお便り」、サークル活動報告・ボランティアサークル
184号	令和2年8月23日(日)	(行事案内)さんばくゼミナール「信州の教育者・地質学者 保科百助」、「バックヤード見学会 何があるのかな?博物館収蔵庫・図書資料館を見て回ろう!」 (報告)「防災キャンプ in 山の子村」、フィールドワーク白馬大池登山ー博物学ゆかりの現地探訪ー、サークル活動報告・鳥帽子の会・ボランティアサークル
185号	令和2年11月15日(日)	(行事案内)ゆきんこ2 南極の秘密 (報告)さんばくゼミナール「信州の教育者・地質学者 保科百助」、バックヤード見学会、サークル活動報告・鳥帽子の会・ボランティアサークル
186号	令和3年2月21日(日)	(行事案内)講演会「大町市にみる岳・野・湖・山」、 「探鳥会 in 大峰」、研究報告&座談会「山のサイエンスカフェ in さんばく 2021」 (報告)「ゆきんこ2 南極の秘密」、サークル活動報告・鳥帽子の会・ボランティアサークル

(4) サークル活動

①鳥帽子の会：サークル会員 29 名（令和 3 年 3 月 31 日 現在）〈事務局担当：千葉悟志〉

活動日	内容	参加者
令和 2 年 8 月 2 日（日）	池田町広津の里一総会—	17 人
令和 2 年 9 月 13 日（日）	岩岳（白馬村）	16 人
令和 2 年 11 月 7 日（土）	大姥山（大町市）	20 人
【中止】令和 2 年 11 月 21 日（土）	越後八十八ヶ所めぐり（糸魚川市）	—
令和 2 年 12 月 26 日（土）	鳴雷山ほか（塩尻市）	14 人
令和 3 年 2 月 27 日（土）	峰方（白馬村）	12 人

②ボランティアの会：サークル会員 28 名（令和 3 年 3 月 31 日 現在）〈事務局担当：千葉悟志〉

活動内容		参加者
令和 2 年 5 月 16 日（土）	ライチョウの餌取り（ナラの若葉採取）	5 人
令和 2 年 4 月 16 日（木） ～11 月 19 日（木）	植物園、付属園、図書資料館、博物館周辺の環境整備・岩石採取、管理している高山植物ポットの除草等	延べ 90 人
令和 2 年 8 月 8 日（土）～ 8 月 13 日（木）	館内・ライチョウ舎等のガイド	延べ 11 人
令和 2 年 6 月・8 月・9 月 11 月・12 月・令和 3 年 1 月・3 月	「山と博物館」「ゆきつばき通信」その他関係資料の配布物の封入作業	延べ 33 人
令和 2 年 10 月 25 日（日）	富山県立山博物館・立山カルデラ砂防博物館ボランティア研修会	24 人
令和 3 年 1 月 17 日（日）	ボランティアサークルとして活動開始から 10 年が経過、これまでの振り返りと今後に向けて会員の思いを語り合う会	12 人
延べ参加人数		175 人

③山花めぐり紀行：サークル会員 13 人（令和 3 年 3 月 31 日 現在）〈事務局担当：千葉悟志〉

活動日	内容	参加者
【中止】令和 2 年 4 月 7 日（日）	令和元年度総会と自然観察会	—
令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月	植物さく葉標本づくり	延べ 35 人
令和 2 年 7 月 2 日（木）・7 日（火）・ 21 日（火）・8 月 27 日（木）	高山植物の植替え・ポット内除草協力	延べ 14 人

④山岳文化研究会：サークル会員 9 人（令和 3 年 3 月 31 日 現在）〈事務局担当：関悟志〉

活動日	内容	参加者
令和 2 年 10 月 8 日（木）	第 1 回定例会【拡大版】（山博） ※ボランティアの会との合同研修会の事前学習会	3 名（ほかに当 会員外 9 人）
令和 2 年 10 月 25 日（日）	合同研修会兼第 2 回定例会（富山県 立山博物館及び立山カルデラ砂防博物館）	7 人（ほかに当 会員外 17 人）
令和 3 年 3 月 7 日（日）	第 3 回定例会（山博） ※山岳博物館催しに参加の形で実施	3 人（ほかに当 会員外 29 名）
令和 3 年 3 月 14 日（日）	第 4 回定例会（山博） ※山岳博物館催しに参加の形で実施	4 人（ほかに当 会員外 23 名）

8 ライチョウ会議（担当：鈴木啓助・栗林勇太・藤田達也）

(1) ライチョウ会議

ライチョウ会議（議長：信州大学 中村浩志特任教授）は、日本アルプスとその周辺に生息するライチョウに関する情報交換と、調査及び研究の連携を図ること、ライチョウに関する知識の普及と啓発を行うことを目的として設置された組織である。当館はその事務局を議長より委嘱されており、会議の運営にあたる事務連絡、諸経費の管理を行っている。構成員の運営によって年1～2回程度会議を開催しているが、事務局として当館では、会議開催の調整・通知、会議資料作成などの事務を行っている。

(2) 第19回ライチョウ会議ぎふ大会

ライチョウ会議大会は、大会開催地の関係者を中心に実行委員会を組織して年1回開催している。事務局として当館では、大会実行委員長ならび実行委員会事務局と連携して、名義後援依頼や報告書作成などの事務を行っている。この大会では、各分野の研究者・行政等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と、現状を把握し具体的な保護活動に結びつけるための意見交換などを行い、連携を強めるとともに、ライチョウについての知識の普及・啓発を行っている。そして、ライチョウをはじめとした野生動植物の生息環境を含めた保護と、人との共存の道を探ることにつなげるために毎年開催されている。

第19回ライチョウ会議ぎふ大会は「県の鳥ライチョウの現状と保全新たなステージへ」をテーマとして、令和2年11月7日～8日に開催された。両日ともに岐阜大学の講堂を会場に行われた。また、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、レセプションは行わず、またサテライト会場（岐阜大学応用生物学部101多目的ホール）を設けて実施を行った。

初日はライチョウの生態や保全の取り組みなどを基礎から学ぶ「ライチョウシンポジウム」が行われ、基調講演「ライチョウの生態と未来」と話題提供「岐阜県民も県の鳥ライチョウのことを知ろうよ!」、及びリレートーク「ライチョウ保全の最前線」が行われた。

2日目はライチョウフォーラムとして、ライチョウの最新状況を伝えるライチョウ専門家による講演会が、以下の2部構成で行われた。

第1部 ライチョウ生息地での取り組み

第2部 動物園でのライチョウ生息域外保全の取り組み

9 長野県山岳総合センターとの連携事業（調整：鈴木啓助・清水隆寿）

令和元年10月9日に開催した山岳総合センターとの連携調整会議において、令和2年度は以下の事業を連携して行うこととなり実施した。

(1) 市立大町山岳博物館 企画展「博物学と登山」関連事業

フィールドワーク「白馬大池登山 ―博物学ゆかりの現地探訪―

（担当：関悟志・太田勝一・千葉悟志・栗林勇太）

a. 主 催：市立大町山岳博物館

b. 協 力：長野県山岳総合センター・大町山岳博物館友の会

c. 開催日：令和2年7月28日（火）・29日（水） ※1泊2日 信州 山の月間中

→天候不良のため登山中止。7/28（火）午前10時～正午に代替え座学を開催。

d. 場 所：白馬大池周辺 →代替え座学は市立大町山岳博物館 講堂で実施。

e. 参加者：代替え座学の参加者12人（大人）

※企画展「博物学と登山」関連事業のフィールドワークとして実施。概要及び所見については前に記載した通り。

(2) すごいぞ! 信州の山シリーズ「神の鳥・日本ライチョウの保護の取り組み」（担当：栗林勇太）

a. 主 催：長野県山岳総合センター

b. 協 力：市立大町山岳博物館

c. 開催日：令和2年8月5日（水）

→新型コロナ対策のため座学中止。動画配信によるオンライン講習として実施。

- d. 場 所：長野県山岳総合センター →同センター公式 YouTube チャンネルで録画配信。
- e. 概 要：長野県山岳総合センターが主催する講習会「すごいぞ！ 信州の山」シリーズのひとつとして、当館学芸員が「神の鳥・日本ライチョウの保護の取り組み」として講演会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策ということで、動画配信によるオンライン講習に切り替えて実施した。なお、この動画は、山岳総合センターの公式 YouTube チャンネルにて公開中で、いつでも無料で視聴可能。

(3) すごいぞ！ 信州の山シリーズ「岳のまち おおまち」の登山史を紐解く（担当：関悟志）

- a. 主 催：長野県山岳総合センター
- b. 協 力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和2年9月5日（土）
→新型コロナ対策のため座学中止。動画配信によるオンライン講習として実施。
- d. 場 所：長野県山岳総合センター →同センター公式 YouTube チャンネルで録画配信。
- e. 概 要：当館学芸員が「岳のまち おおまち」の登山史を紐解く」と題し、大町市周辺における北アルプスの登山史を含む山岳文化史についてお話をさせていただいた。今回は新型コロナ対策ということで、動画配信によるオンライン講習となったが、当館で9月27日まで開催中の企画展「博物学と登山」の内容をダイジェストにして紹介した。なお、この動画は9月5日の配信以降、山岳総合センターの公式 YouTube チャンネルにて公開中で、いつでも無料で視聴可能（約25分）。

(4) 夏休み！たかがり自然探検隊」（担当：栗林勇太・清水隆寿）

- a. 主 催：長野県山岳総合センター
- b. 協 力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和2年8月5日（水）～6日（木）
- d. 場 所：長野県山岳総合センター、市立大町山岳博物館講堂→新型コロナ対策のため中止

(5) わくわくチャレンジ教室⑤「冬休み・めざせ！雪ハカセ」（担当：鈴木啓助）

- a. 主 催：長野県山岳総合センター
- b. 協 力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和3年1月7日（木） →屋外に雪がないため中止。
- d. 場 所：大町公園

(6) 動画「学校登山 ～120年の歴史を未来へ～」制作・公開（担当：藤田達也・関悟志）

- a. 主 催：長野県山岳総合センター
- b. 協 力：市立大町山岳博物館
- c. 概 要：長野県山岳総合センターでは、長野県内の多くの中学校で行われている学校行事「学校登山」を広く知っていただくために動画「学校登山 ～120年の歴史を未来へ～」(11分)を制作し、3月3日から山岳総合センターの公式 YouTube チャンネルで公開を行っている。当館では、その制作の企画準備から参画させていただき、写真・文章の提供等について協力を行った。この動画は、近年、県内で減少傾向にある学校登山の魅力と意義を学校関係者や県民の方々に広くアピールするために制作した動画で、とくに今年度のコロナ禍で学校登山が中止になってしまった学校生徒の方々に視聴いただき、信州の山の魅力や登山の楽しさを伝える機会となればとの願いを込めて公開したものである。

IV 動植物飼育栽培繁殖事業

1 動物飼育繁殖（担当：栗林勇太・藤田達也・遠藤モナミ・小里玲奈・唐澤紗波・辰己萌恵）

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やし、研究をしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見ていただくという考え方を大切に、以下の基本方針を定めている（平成24年度策定）。

- 生体展示・・・生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
- 教育普及への活用・・・飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。
- 傷病鳥獣の救護・・・傷ついたり病気になったりした野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。
- 希少種の保護・・・希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。
- 施設整備の充実・・・付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

当館の基本理念と上記の基本方針に基づき、付属園（動植物園）では、希少野生動物繁殖事業、アルプス動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（受託事業）を実施し、それら事業に関わり動物飼育繁殖事業を含む博物館事業（資料収集保管事業、調査研究事業、教育普及事業）を行っている。

現在、希少野生動物繁殖事業ではニホンカモシカとライチョウを飼育し、野生傷病鳥獣救護事業では大町市周辺で救護された野生動物を飼育している。なお、アルプス動物園友好提携事業での交換動物は現在飼育していない。

飼育動物（令和3年3月31日現在）

（単位：個体）

種名	雄	雌	不明	計	種名	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	1	2		3	トビ			8(8)	8(8)
ハクビシン	2(2)	1(1)		3(3)	フクロウ			1(1)	1(1)
					チョウゲンボウ	1(1)			1(1)
					キジバト			2(2)	2(2)
					アオクビアヒル	1(1)			1(1)
					スバルバル ライチョウ	1	1		2
					ライチョウ	3	3		6
計	3(2)	3(1)		6(3)	計	6(2)	4	11(11)	21(13)

・哺乳類 2(1)種・6(3)個体

・鳥類 7(5)種・21(13)個体

合計 9(6)種・27(16)個体

※括弧内の数は救護動物の種数・個体数

(1) 希少野生動物繁殖

当館ではニホンカモシカ、ライチョウ、イヌワシなどの希少野生動物の繁殖に取り組んできた経緯がある。平成28年度よりライチョウの飼育を再開し、同年に乗鞍岳で採卵した卵の孵化と育雛に取り組んでおり、令和2年度においても1つがいのライチョウの繁殖に取り組んでいる。

ニホンカモシカについては、当館で飼育中の個体の繁殖は行っていないが、埼玉県こども動物自然公園に貸し出し中のオスが繁殖に成功した。また、昨年度生まれた個体（第3子）が当館の帰属となった。

①ニホンカモシカ

a. 出生・導入個体

埼玉県こども動物自然公園にブリーディングローンとして貸し出し中の個体（オス・愛称クロベ、平成21年～）について同園で令和元年に繁殖の取り組みがなされ、同年6月7日に第3仔が生まれた。令和3年3月に同園と協議の上、生まれた個体を当館の帰属とすることが決定した。

b. 死亡個体

当館で平成16年5月に産まれたメス（愛称さつき）が本年5月に死亡した。死因は老衰とみられる。また、ブリーディングローンとして富山市ファミリーパークに貸し出ししていたニホンカモシカ（メス・愛称さくら、平成15年～）が令和3年2月に死亡した。

c. 転出個体

現在、ブリーディングローンとして付属園内で繁殖したニホンカモシカ（オス・愛称クロベ、平成21年～）を埼玉県こども動物自然公園に、また埼玉県こども動物自然公園で繁殖したクロベの第2仔を長野市茶臼山動物園（メス・愛称モモ、令和元年～）に各1頭貸出し中。第3仔については、現在も埼玉県こども動物自然公園にて飼養している。

d. 今後の計画

新たに野外で飼養する個体の導入が困難なことから、若い個体の確保を目的として繁殖を行いたいが付属園の設備、特にカモシカ飼育施設の整備が整うまで繁殖計画を保留にする。また、国内動物園間でブリーディングローンを行うことを視野に入れ、他の飼育園館に向けた情報発信と共有を行う。

長野市茶臼山動物園に貸し出し中の個体が繁殖に成功した場合、第1子が当館の帰属となる契約を結んだことから、付属園の整備状況等を勘案しながら受け入れの検討を行う。

②ライチョウ

a. 概要

年度当初飼育していた8羽について、1つがい飼育繁殖技術向上の観点から繁殖に取り組んだ平成10年以來の取り組みとして、自然繁殖（自然抱卵・自然育雛）を試みたところ、自然抱卵には成功したものの、孵化には至らなかった。この時産まれた有精卵の1つを中央アルプス野生復帰事業に提供した。また本年度新たに飼育園として加わった長野市茶臼山動物園へ令和元年に産まれたオス1羽を移動させた。2月には令和元年生まれのオス1羽が死亡した。令和3年3月31日現在、オス3羽・メス3羽の計6羽を飼育している。

b. 繁殖

本年度も引き続き1つがいの繁殖に取り組んだ。今年も平成10年以來の取り組みとなる、母鳥に托卵させて孵化・育雛をさせる自然繁殖（自然抱卵・自然育雛）に取り組む、有精卵を得て自然抱卵をさせることはできたが、孵化には至らなかった。

また、得られた有精卵の1つを、環境省が主導している中央アルプス野生復帰事業に提供した。この取り組みは、中央アルプス木曾駒ヶ岳にて定着が確認された1羽のメスに、全国の動物園から得られた有精卵を抱かせる計画であり、結果として全国4園館から有精卵とみられる卵が提供されたが、孵化したすべての雛について死亡が確認された。なお、当館が提供した有精卵については孵化が確認された。

c. 死亡個体

令和元年に産まれたオス1羽が2月23日に死亡した。死因究明を日本獣医生命科学大学山本教授に依頼している。

d. 転出個体

本年度より新たに飼育園として加わった茶臼山動物園に、令和元年生まれのオス1羽を生体移動させた。

(2) 希少野生動物繁殖以外の飼育動物の増減

譲渡や受け入れ、死亡等により下記の動物の増減があった。

月・日	種名	雌雄	記号・愛称	事由
令和3年2月9日	タヌキ	雄	リョウマ	死亡
令和3年3月25日	チョウゲンボウ	雌		死亡

(3) 傷病鳥獣救護

傷病鳥獣救護については、昭和28年頃の付属園併設以降、野生動物の保護や近隣住民への教育的配慮の観点から独自に行ってきたが、平成9年度からは長野県の指導を受けて行うようになり、平成17年度からは長野県の野生傷病鳥獣救護事業委託の受託によって行っており、現在、大北地域に

おける野生傷病鳥獣救護施設としてケガや病気の野生動物を収容している。

しかし、近年のライチョウの飼育再開に伴い、防疫上の観点や関係法令等に基づいた適切な対応を考慮し、平成 27 年度以降、傷病鳥獣の新規受け入れを行っていない。なお、平成 26 年度までに収容された傷病鳥獣については引き続き保護・飼養を行い、救護事業への寄与を継続して行っている。

(4) アルプス動物園交換動物

友好提携を結んでいるオーストリア・インスブルック市のアルプス動物園から交換動物として贈られたヨーロッパ・チロル地方の野生動物（アルプスマーモット、ヨーロッパオオライチョウ、シベリアオオヤマネコ、シャモア）を昭和 60（1985）年から平成 23（2011）年まで飼育していたが、現在、飼育個体はいない。

2 植物栽培繁殖（担当：千葉悟志）

(1) 栽培植物

①栽培植物の増減

増：イワツメクサ、キバナノコマノツメ、クロクモソウ、アラシグサ、イワベンケイ、チョウジギク、ウサギギク、ユキワリソウ

減：マイヅルソウ、アイヌソモソモ

②栽培植物

アズミノヘラオモダカ（長野県絶滅危惧ⅠA類）、イヤリトリカブト（長野県絶滅危惧ⅠA類）、トガクシソウ（長野県絶滅危惧ⅠA類）、ビッチュウフウロ（長野県絶滅危惧ⅠB類）、サクラソウ（長野県絶滅危惧Ⅱ類、長野県希少野生植物指定種）、トキシソウ（絶滅危惧Ⅱ類）、ササユリ（長野県準絶滅危惧・長野県指定希少野生植物指定種）、カキツバタ（長野県準絶滅危惧）、フクジュソウ（長野県準絶滅危惧）、コオニユリ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、ミズバショウ、リュウキンカ、サワギキョウ、モウセンゴケ、コマクサ、ズダヤクシュ、オヤマリンドウ、ハクサンフウロ、ミヤマセンキュウ、クロトウヒレン、ヤマガラシ、ウスユキソウ、ミヤマトウキ、ミヤマオトコヨモギ、ミヤマダイコンソウ、ヤマブキショウマ、コケモモ、ミヤマコウゾリナ、クロユリ、ガンコウラン、クロマメノキ、ハクサンコザクラ、ハクサンボウフウ、チングルマ、タカネナナカマド、クロウスゴ、ベニバナイチゴ、ミツバオウレン、ウラジロナナカマド、ホンドミヤマネズ、ミヤマキンポウゲ、オンタデ、イワギキョウ、イブキトラノオ、タカネマツムシソウ、ハクサンタイゲキ、カライトソウ、イワオウギ、ミヤマクワガタ、ミソガワソウ、ミヤマセンキュウ、ゼンテイカ、タテヤマウツボグサ、ゴゼンタチバナ、エゾスグリ、コメススキ、ハクサンシャクナゲ、ハイマツ、ヤマブキショウマ、シナノオトギリ、アキギリ

a. 栽培の状況

試行錯誤をしながら夏場は水はけに注意するとともに建物の日陰を利用することで、ある程度の高山植物の育苗が可能であることがわかった。今後も種数を増やしながら付属園において来館者が観察できる環境を整えていきたい。

3 付属園整備（担当：千葉悟志・栗林勇太・藤田達也）

(1) 付属園整備構想の計画見直しについて

①経過と方針

博物館付属園整備構想及び計画については、平成 25 年度に一度作成しているところであるが、その後に行われたライチョウ舎の増設工事との整合性を図るため、ライチョウ舎以外の整備計画作成に着手すべく、平成 30 年度において大町市教育委員会、大町市社会教育委員会、市立大町山岳博物館協議会、大町山岳博物館友の会（役員対象）に意見聴取をさせていただき、この結果を踏まえて館内において協議を重ねてきた。

現行構想においては「市民に愛される付属園」とされ、付属園が今日まで市民や観光客に親しまれてきた経過を考慮すると、整備構想の見直しに際し、ライチョウとカモシカ以外の動物の飼育も視野に、どの程度の動物飼育（種類・飼育数）が当館の施設規模や組織体制に即して適正であるのか、さらには財政的に投資に見合う施設整備か等、時間をかけて慎重に協議を進めていくこととなった。

令和2年度は、具体的な博物館付属園整備構想(案)を作製し、経費等についても概算であるが算出したところである。これをもって令和2年度はコロナウイルス感染拡大防止のために開催が出来なかった博物館協議会等を来年度開催し、修正を図りながら、実施計画の作成を進めていきたい。

②構想を実現化していく上での主な課題点

- ・カモシカの飼育繁殖のための施設形態と適正規模を検討。
- ・導入動物の種類選定にあたって、飼育や繁殖計画の策定、施設規模や施設内容等について(動物エンリッチメントへの配慮、繁殖の可否、入手方法、業務量の検討)。
- ・イヌワシ舎については、撤去の方針で検討を進める。
- ・コレクションプランについての調査研究と導入。
- ・予算規模(投資規模や年間のランニングコスト)とスタッフ体制の検討。
- ・付属園設置要綱等が未整備なため、整備構想・見直しの基盤が定まらない状況(付属園設置要綱を構想・計画の見直しに合わせ策定)。
- ・ライチョウ、カモシカを主体とした施設規模等に応じた飼育可能な導入動物の適正な飼育繁殖方法等の検討。
- ・新たな付属園構想には高山植物や岩石・鉱物の展示、学習や滞留空間、憩いの場の創出のための検討を行っているが、更に具体案の検討を進める。

以上、主だった課題点を列挙したが、これらの課題解決を図りながら、実施計画の策定を行う。

4 公益社団法人日本動物園水族館協会(担当:鈴木啓助・栗林勇太・藤田達也)

公益社団法人日本動物園水族館協会(略称:日動水、JAZA)は、国際的な視野に立って、自然や貴重な動物を保護するためにできた国内の動物園や水族館の組織。日本全体の視野に立って、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」という4つの目的を中心に、単独の園館ではできないことを協力して行っており、当館では付属園で動物を飼育していることから、同協会へ加盟している。

本年度においては、新型コロナウイルスの影響により会議等が中止となり、意見書および委任状での対応を行った。

V その他

1 各種委員等の委嘱他

ライチョウ会議 事務局（鈴木啓助、栗林勇太）
第20回ライチョウ会議大会 実行委員会（栗林勇太・藤田達也）
日本動物園水族館協会生物多様性委員会 ライチョウ専門技術員（栗林勇太）
全国山岳博物館等連絡会議〔主催：公益社団法人日本山岳会〕（関悟志）
長野県博物館協議会 監査（鈴木啓助）
信州大学・大町市連携協議会 委員（鈴木啓助）
高山植物等保護対策協議会 中信地区会員（鈴木啓助）
安曇野アートライン推進協議会 幹事（鈴木啓助）／同協議会 美術館・博物館部会（清水隆寿）
大北地区野生鳥獣保護管理対策協議会 委員（鈴木啓助）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会 参与（鈴木啓助）
長野県科学振興会大町支部 理事（千葉悟志）
大町桜まつり実行委員会 委員（鈴木啓助）
針ノ木岳慎太郎祭実行委員会 副大会長（鈴木啓助）
大町博物館連絡会 理事（鈴木啓助） 幹事（清水隆寿）
大町博物館連絡会 代表 大町市青少年育成協議会 理事（関悟志）
北アルプス雪形まつり実行委員会 実行委員（清水隆寿）
美術展ベストセレクション in 信濃大町実行委員会 選考委員（清水隆寿）
美術展ベストセレクション in 信濃大町実行委員会 実行委員（関悟志）
信濃大町山岳フェスティバル実行委員会 実行委員（関悟志）

2 アルプス動物園との友好提携協定の締結

昭和60年2月18日、オーストリア・インスブルック市のアルプス動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。

「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）平成27年4月8日、友好提携30周年を記念し、友好提携再締結をした。

3 信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結

平成17年7月5日、信州大学山岳科学総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。

「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

4 長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結

平成26年3月25日、長野県環境保全研究所と当館は、次のような目的による連携・協力に関する協定について締結をした。

「長野県を特徴づける山岳域の自然とその環境保全にかかわる諸課題の解明や解決に力をあわせて取り組むことが、学術振興や自然環境保全、そして地域の発展に重要な役割を果たすことを深く認識し、両機関が、調査研究・教育普及・人材育成等、相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具

体的な連携・協力を効果的に実施することにより、学術の振興及び自然環境保全に寄与するとともに、地域の発展に貢献することを目的として連携・協力に関する協定を締結する。」(同協定書より抜粋)
なお連携協定の有効期間は、締結日から5年間と定められていることから、あらためて、相互に協定書を交わし、平成31年4月1日に再締結を行った。有効期間は、令和6年3月31日までの5年間とする。

5 ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結

平成27年6月18日、公益財団法人富山市ファミリーパーク公社と当館は、次のような目的による連携に関する協定について締結をした。

「ニホンライチョウは国の特別天然記念物にも指定されている日本を代表する鳥類であるが、近年は絶滅が危惧され、国の保護増殖事業計画種にも指定されている。両園館は互いに隣接する、ニホンライチョウの生息地に所在する園館として、ニホンライチョウの保護増殖を目的に、ライチョウ類の飼育繁殖技術の連携に関する協定を締結する。」(同協定書より抜粋)

6 梅棹忠夫 山と探検文学賞への協力

平成22年(2010)5月、「梅棹忠夫 山と探検文学賞」委員会のもと創設され、創設時より山岳博物館は協力という形で支援をしております。選考委員会委員長・小山修三(国立民族学博物館名誉教授)氏のもと、令和3年3月に受賞作品が発表されましたが、本年度は新型コロナウイルス感染症蔓延防止の為、授賞式は行わず、受賞作品のみ発表されました。

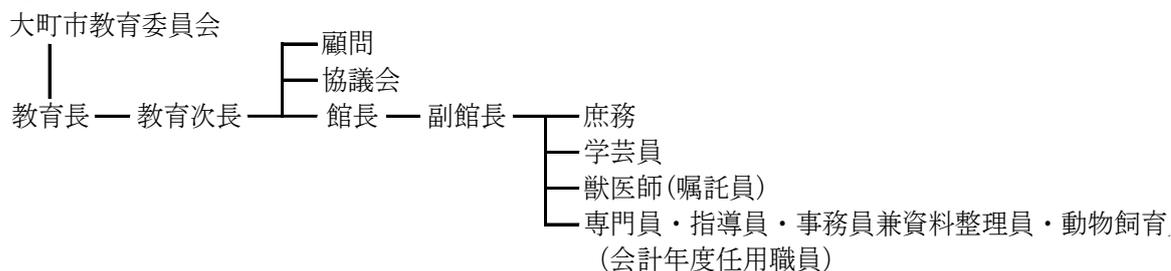
以下、これまでの受賞作品です。

- 第1回(2011) 角幡唯介「空白の五マイル」(集英社)
- 第2回(2012) 中村保 「最後の辺境 チベットのアルプス」(山と溪谷社)
- 第3回(2013) 高野秀行「謎の独立国家 ソマリランド」(本の雑誌社)
- 第4回(2014) 中村哲 「天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い」(NHK出版)
- 第5回(2015) 服部文祥「ツンドラ・サバイバル」(みすず書房)
- 第6回(2016) 中村逸郎「シベリア最深紀行」(岩波書店)
- 第7回(2017) 大竹英洋「そして、ぼくは旅にでた。はじまりの森ノースウッズ」(あすなる書房)
- 第8回(2018) 佐藤優 「十五の夏」(幻冬舎)
- 第9回(2019) 萩田泰永「考える脚」(KADOKAWA)
- 第10回(2020) 小野和子「あいたくて ききたくて 旅にでる」(PUMPQUAKES)

VI 運営

1 組織および職員構成

(1) 組織



(2) 顧問

小坂共栄 (平成 28 年 3 月 1 日～)

(3) 協議会委員

学校教育および社会教育の関係者：山岸澄雄、宮澤洋介

家庭教育の向上に資する活動を行う者：柳澤英幸、赤坂隆宏

学識経験のある者：岡田忠興、村越直美、佐藤悟、堀田昌伸、菊原昭一、須田哲、丸山祥子

公募による市民等：大日方三郎

(4) 職員

①配置

館長 鈴木啓助

副館長 清水隆寿 (人文科学系学芸担当兼庶務)

学芸員 千葉悟志 (自然科学系植物担当)、関悟志 (人文科学系担当)、
栗林勇太 (自然科学系動物担当)、藤田達也 (自然科学系動物担当)

事務員 下坂昌幸 (庶務)

専門員※ 太田勝一 (自然科学系地質担当)

獣医師 横沢豊 (令和 2 年 3 月 1 日～ 非常勤)

事務員兼資料整理員※ 家城良好・降簾秀子

動物飼育員※ 遠藤モナミ・小里玲奈・唐澤沙波・辰己萌恵 ※会計年度任用職員

②人事異動

転入 事務員 下坂昌幸 (令和 2 年 4 月 1 日～)

学芸員 藤田達也 (令和 2 年 4 月 1 日～ 新規採用)

専門員 太田勝一 (令和 2 年 4 月 1 日～新規採用)

事務員兼資料整理員 降簾秀子 (令和元年度 大町市役所正規職員退職 令和 2 年 4 月 1 日 新規採用)

動物飼育員 辰己萌恵 (令和 2 年 4 月 1 日 新規採用)

転出 学芸員 関本景香 (令和 2 年 3 月 31 日)

退職 指導員 宮野典夫 (令和 2 年 3 月 31 日)

専門員 矢野孝雄 (令和 2 年 3 月 31 日)

動物飼育員 多田晴彦 (令和 2 年 3 月 31 日)

2 市立大町山岳博物館協議会

協議委員任期：令和元年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日〔任期：2 年間〕

協議委員名簿：山岸澄雄 (学校教育関係者)

宮澤洋介 (社会教育関係者) ※協議会会長

柳澤英幸 (家庭教育活動者)

赤坂隆宏（家庭教育活動者）
岡田忠興（学識経験者） ※協議会副会長
村越直美（学識経験者）
佐藤 悟（学識経験者）
堀田昌伸（学識経験者）
菊原昭一（学識経験者）
須田 哲（学識経験者）
丸山祥子（学識経験者）
大日方三郎（公募市民）

(1) 令和2年度 第1回協議会

①日 時：令和2年7月・令和3年3月に博物館協議会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、当該年度の協議会は中止とした。

②場 所：市立大町山岳博物館 講堂

③出席委員予定：宮澤洋介・岡田忠興・赤坂隆宏・山岸澄雄・柳澤英幸・村越直美・佐藤 悟・堀田昌伸・菊原昭一・須田 哲・丸山祥子・大日方三郎

※令和元年度以前の『年報』では「入館者状況」としていたが、当館条例の表記に則して「入館者」を「観覧者」（博物館を観覧しようとする者）に改めるとともに、「観覧以外の利用者」の項目を新たに加え、両者の総計をもって「利用者状況」とした、なお、令和2年度以前の「観覧以外の利用者」の数値については、過去の実績を遡って集計した人数を記載した。

3 利用者状況

(1) 年度別の利用者状況

(単位：人)

年 度	利 用 者																	総計		
	観 覧 者（常設展ならび企画展・特別展の観覧）											観覧以外の利用者※ （催し参加・学習協力・資料特別利用・各種照会）								
	有料観覧者							無料観覧者				小計	合計	催し参加者 （主催事業）	学習協力先の参加者		資料特別利用者 （山岳図書資料館利用者含む）		各種照会者 （レファレンス）	合計
	個人			団体				一般 減免	市内						学校 （博物館実習含む）	学校以外 の各種 団体等				
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生	65歳 以上		高校生	小中生										
S26	291	—	100	21	—	77	489	—	—	—	—	—	489	—	—	—	—	—	—	489
27	2,425	—	1,022	186	—	1,514	5,147	—	—	—	—	—	5,147	—	—	—	—	—	—	5,147
28	8,922	—	2,229	725	—	1,216	13,092	—	—	—	—	—	13,092	—	—	—	—	—	—	13,092
29	7,779	—	1,831	625	—	1,189	11,424	—	—	—	—	—	11,424	—	—	—	—	—	—	11,424
30	6,831	—	1,664	1,445	—	945	10,885	—	—	—	—	—	10,885	—	—	—	—	—	—	10,885
31	2,148	—	888	1,036	—	858	4,930	—	—	—	—	—	4,930	—	—	—	—	—	—	4,930
32	1,934	—	658	826	—	1,880	5,298	—	—	—	—	—	5,298	—	—	—	—	—	—	5,298
33	2,979	—	1,032	1,469	—	2,417	7,897	—	—	—	—	—	7,897	—	—	—	—	—	—	7,897
34	2,972	—	626	1,727	—	1,788	7,113	—	—	—	—	—	7,113	—	—	—	—	—	—	7,113
35	3,635	—	878	1,943	—	2,143	8,599	—	—	—	—	—	8,599	—	—	—	—	—	—	8,599
36	4,181	—	1,329	2,132	—	2,521	10,163	—	—	—	—	—	10,163	—	—	—	—	—	—	10,163
37	5,313	—	1,633	4,549	—	2,748	14,243	—	—	—	—	—	14,243	—	—	—	—	—	—	14,243
38	6,394	—	1,854	4,727	—	2,918	15,893	—	—	—	—	—	15,893	—	—	—	—	—	—	15,893
39	10,464	—	1,658	12,600	—	1,520	26,242	—	—	—	—	—	26,242	—	—	—	—	—	—	26,242
40	14,214	—	1,696	8,050	—	1,600	25,560	—	—	—	—	—	25,560	—	—	—	—	—	—	25,560
41	10,399	—	1,711	13,070	—	1,500	26,680	—	—	—	—	—	26,680	—	—	—	—	—	—	26,680
42	12,891	—	1,649	8,301	—	3,059	25,900	—	—	—	—	—	25,900	—	—	—	—	—	—	25,900
43	18,458	—	2,071	17,769	—	3,240	41,538	—	—	—	—	—	41,538	—	—	—	—	—	—	41,538
44	16,273	—	2,100	10,845	—	3,749	32,967	—	—	—	—	—	32,967	—	—	—	—	—	—	32,967
45	13,405	—	1,941	11,623	—	3,960	30,929	—	—	—	—	—	30,929	—	—	—	—	—	—	30,929
46	18,414	—	3,001	14,718	—	3,193	39,326	—	—	—	—	—	39,326	—	—	—	—	—	—	39,326
47	17,500	—	3,025	13,268	—	6,877	40,670	—	—	—	—	—	40,670	—	—	—	—	—	—	40,670
48	25,809	—	4,178	22,612	—	5,774	58,373	—	—	—	—	—	58,373	—	—	—	—	—	—	58,373

年 度	利 用 者																					
	観 覧 者（常設展ならび企画展・特別展の観覧）												観覧以外の利用者※ （催し参加・学習協力・資料特別利用・各種照会）						総計			
	有料観覧者							無料観覧者					小計	合計	催し参加者 （主催事業）	学習協力先の参加者		資料特別利用者 （山岳図書資料館利用者含む）		各種照会者 （レファレンス）	合計	
	個人			団体				一般 減免	市内			小計				合計	学校 （博物館 実習含む）					学校以外 の各種 団体等
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生	65歳 以上		高校生	小中生												
S49	28,702	—	4,277	23,432	—	5,843	62,254		—	—	—											
50	32,345	—	4,896	23,616	—	6,835	67,692	—	—	—	—	—	67,692	—	—	—	—	—	—	67,692		
51	32,111	—	5,142	25,150	—	8,200	70,603	—	—	—	—	—	70,603	—	—	—	—	—	—	70,603		
52	26,155	—	4,311	18,907	—	5,327	54,700	—	—	—	—	—	54,700	—	—	—	—	—	—	54,700		
53	26,346	—	4,158	24,903	—	8,722	64,129	—	—	—	—	—	64,129	—	—	—	—	—	—	64,129		
54	27,769	—	4,485	25,089	—	6,600	63,943	—	—	—	—	—	63,943	—	—	—	—	—	—	63,943		
55	25,743	—	4,414	19,909	—	6,972	57,038	—	—	—	—	—	57,038	—	—	—	—	—	—	57,038		
56	31,697	—	7,558	16,182	—	9,695	65,132	—	—	—	—	—	65,132	—	—	—	—	—	—	65,132		
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965	—	—	—	7,965	70,215	—	—	—	—	—	—	70,215		
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026	—	—	—	9,026	86,416	—	—	—	—	—	—	86,416		
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117	—	—	—	8,117	82,384	—	—	—	—	—	—	82,384		
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770	—	—	—	6,770	99,866	—	—	—	—	—	—	99,866		
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509	—	—	—	4,509	86,678	—	—	—	—	—	—	86,678		
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605	—	—	—	3,605	86,238	—	—	—	—	—	—	86,238		
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269	—	—	—	6,269	84,925	—	—	—	—	—	—	84,925		
H1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709	—	—	—	3,709	80,744	—	—	—	—	—	—	80,744		
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844	—	—	—	4,844	82,798	—	—	—	—	—	—	82,798		
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577	—	—	—	4,577	86,477	—	—	—	—	—	—	86,477		
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413	—	—	—	3,413	73,824	—	—	—	—	—	—	73,824		
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587	—	—	—	3,587	75,766	—	—	—	—	—	—	75,766		
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376	—	—	—	3,376	64,939	—	—	—	—	—	—	64,939		
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376	—	—	—	5,376	63,860	—	—	—	—	—	—	63,860		
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174	—	—	—	2,174	53,984	—	—	—	—	—	—	53,984		
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,133	1,429	—	—	—	1,429	47,562	—	—	—	—	—	—	47,562		
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686	—	—	—	1,686	42,440	—	—	—	—	—	—	42,440		
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206	—	—	—	1,206	34,618	—	—	—	—	—	—	34,618		

年度	利 用 者																			総計
	観 覧 者（常設展ならび企画展・特別展の観覧）												観覧以外の利用者※ （催し参加・学習協力・資料特別利用・各種照会）							
	有料観覧者						小計	一般 減免	無料観覧者			小計	合計	催し 参加者 (主催 事業)	学習協力先の 参加者		資料特別 利用者 (山岳図書 資料館利 用者含む)	各種 照会者 (レファ レンス)	合計	
	個人			団体					市内											
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳 以上	高校生	小中生									
H12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187	—	—		1,187	34,059	—	—	—	—	—	—	34,059
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	—	826	2,710	35,013	—	—	—	—	—	—	35,013
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	—	451	1,655	28,399	3,332	27	33	—	—	3,392	31,791
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	—	616	1,891	28,322	2,873	70	21	6	—	2,970	31,292
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	—	662	1,317	21,551	1,690	25	31	19	—	1,765	23,316
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	—	491	1,599	19,265	1,351	957	780	21	—	3,109	22,374
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	—	688	2,675	23,363	1,639	1,345	913	11	—	3,908	27,271
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	—	693	1,874	17,572	2,212	1,022	575	5	—	3,814	21,386
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	—	619	2,325	18,515	2,220	842	496	4	—	3,562	22,077
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	—	348	1,655	17,942	2,416	540	417	6	—	3,379	21,321
22	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	—	203	1,274	15,147	1,500	932	699	8	—	3,139	18,286
23	12,376	127	855	2,963	328	1,396	18,045	2023	146	—	819	2988	21,033	1,857	1,019	1,609	20	—	4,505	25,538
24	9,827	114	640	2,335	498	587	14,001	1,294	94	—	783	2,171	16,172	1,579	1,002	1,516	193	—	4,290	20,462
25	7,550	97	522	2,008	142	353	10,672	919	162	—	409	1,490	12,162	693	920	243	86	—	1,942	14,104
26	12,249	120	892	3,146	655	370	17,432	2,450	422	—	615	3,487	20,919	1,435	1,162	720	144	—	3,461	24,380
27	10,427	101	795	2,729	444	610	15,106	2,350	214	—	572	3,136	18,242	1,511	725	380	140	—	2,756	20,998
28	9,774	98	709	2,442	433	540	13,996	2,008	127	—	759	2,894	16,890	867	942	454	181	—	2,444	19,334
29	10,210	77	735	3,084	230	1,176	15,512	2,477	217	—	486	3,180	18,692	908	1,736	963	103	—	3,710	22,402
30	10,795	79	840	2,895	245	826	15,680	2,878	117	—	422	3,417	19,097	514	1,517	1,509	109	—	3,649	22,746
R1	11,459	115	1,070	3,305	247	391	16,587	2,882	84	—	328	3,294	19,881	3,430	1,469	1,430	120	—	6,449	26,330
2	4,734	74	508	3,670	58	599	9,643	1,996	111	0	445	2,552	12,195	544	1,342	554	73	57	2,570	14,765
累計	1,366,086	20,371	198,450	619,094	86,668	285,936	2,576,605	115,766	3,408	0	11,235	130,409	2,707,014	32,571	17,594	13,343	1,249	57	64,814	2,771,828

※観覧以外の利用者について、学校との連携事業（市内小学校の博物館活用事業）などで常設展の観覧を行った場合、観覧者の数値と重複する。なお、このほかの観覧以外の利用者として、友の会の自主事業やサークル活動への参加者、当館出版物の購入者、公式ウェブサイトやSNSの閲覧者などもあり。

(2) 令和2年度 月別の利用者状況

(単位:人)

月	利 用 者																			総計
	観 覧 者 (常設展ならび企画展・特別展の観覧)												観覧以外の利用者※ (催し参加・学習協力・資料特別利用・各種照会)							
	有料観覧者						小計	無料観覧者					合計	催し参加者 (主催事業)	学習協力先の参加者		資料特別利用者 (山岳図書館資料館利用者含む)	各種照会者 (レファレンス)	合計	
	個人			団体				一般 減免	市内			学校 (博物館 実習含む)			学校以外 の各種 団体等					
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳 以上	高校生	小中生									
4	102	4	11	0	0	0	117	38	2	0	4	44	161	0	0	0	7	4	11	172
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	120	13	2	5	140	140
6	449	4	31	227	1	37	749	169	15	0	12	196	945	0	14	0	9	4	27	972
7	690	14	93	506	1	26	1,330	275	14	0	39	328	1,658	40	52	32	9	5	138	1,796
8	771	16	111	685	8	46	1,637	224	19	0	34	277	1,914	269	58	26	11	2	366	2,280
9	596	9	42	449	2	18	1,116	233	3	0	4	240	1,356	49	12	9	5	4	79	1,435
10	716	3	104	614	0	318	1,755	443	18	0	58	519	2,274	36	391	343	4	7	781	3,055
11	557	4	37	439	43	96	1,176	187	22	0	198	407	1,583	39	542	40	6	6	633	2,216
12	190	13	15	177	0	17	412	122	3	0	72	197	609	19	149	0	1	6	175	784
1	87	0	3	74	0	3	167	73	6	0	2	81	248	33	1	0	5	2	41	289
2	265	4	17	220	0	14	520	78	1	0	2	81	601	0	0	58	8	9	75	676
3	311	3	44	279	3	24	664	154	8	0	20	182	846	59	3	33	6	3	104	950
計	4,734	74	508	3,670	58	599	9,643	1,996	111	0	445	2,552	12,195	544	1,342	554	73	57	2,570	13,987
前年	11,459	115	1,070	3,305	247	391	16,587	2,882	84	0	328	3,294	19,881	3,430	1,469	1,430	120	—	6,449	26,330
前年度比	41.3%	64.3%	47.5%	111.0%	23.5%	153.2%	58.1%	69.3%	132.1%	0%	135.7%	77.5%	61.3%	15.9%	91.4%	38.7%	60.8%	—	39.9%	53.1%

※観覧以外の利用者について、学校との連携事業（市内小学校の博物館活用事業）などで常設展の観覧を行った場合、観覧者の数値と重複する。なお、このほかの観覧以外の利用者として、友の会の自主事業やサークル活動への参加者、当館出版物の購入者、公式ウェブサイトやSNSの閲覧者などもあり。

(3) 令和2年度の開館日数

全 278 日

※通常であれば315日の開館予定であったところ、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け、4月19日（日）～6月1日（月）の間、臨時休館の対応をとったため、開館日数が37日間減少することになった。

4 令和2年度予算・決算

(1) 歳入

(単位：円)

項目	観覧料	県委託金 (傷病鳥獣救護)	寄附金	雑入	合計
当初予算額(A)	7,065,000	160,000	0	516,000	7,741,000
決算額(B)	3,833,050	127,000	83,587	552,291	4,595,928
比較(B-A)	△3,231,950	△33,000	83,587	36,291	3,145,072

(2) 歳出

(単位：円)

項目	一般職員 人件費	管理運営 一般経費	教育普及 事業	調査研究 事業	資料収集 保管事業
当初予算額(A)	34,533,000	42,914,000	5,242,000	371,000	3,894,000
決算額(B)	46,624,934	16,952,729	4,347,563	284,036	2,214,191
比較(B-A)	12,091,934	△25,961,271	△894,437	△86,964	△1,679,809
項目	動植物飼育 栽培事業	ライチョウ飼育 事業	付属園整備 事業		合計
当初予算額(A)	6,685,000	8,736,000	960,000		103,335,000
決算額(B)	5,930,597	6,820,053	754,875		83,928,978
比較(B-A)	△754,403	△1,915,947	△205,125		△19,406,022

5 ミュージアムカフェ・ショップ (担当：清水隆寿)

大町山岳博物館では、博物館を利用する来館者及び大町公園や東山へのトレッキングなどの利用者への利便性の向上を図ることを目的に、館内にミュージアムカフェ・ショップを設置し、飲食物の提供や商品の販売を行っている。運営にあたっては、事業者を公募し、委託営業を行っている。

平成6年7月1日から平成25年11月4日にかけては、大町山岳博物館友の会に運営を委託し、喫茶・売店「こまくさ」として営業を行っていた。平成26年4月から新たに運営業者を公募し、山内優氏によりミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」と店舗名を変更し運営にあたっていただき、以降3年間ごとあらためて新規公募を募り運営業者の選定を行い、委託契約を結び業務を実施していただいている。

(1) 令和2年度受託者

- ・氏名：館長 山内 優
- ・名称：ミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」

(2) 契約期間

- ・令和2年4月1日～令和5年3月31日まで〔3年間〕

(3) 令和2年度以降の運営体制について

- ・令和2年3月末をもってミュージアムカフェ・ショップ運営業者との契約期間が終了することから、令和元年度中に新たな運営業者の選定を行った。

選定にあたっては、企画提案方式（プレゼンテーション）とし、第一次審査は書類審査とし、第二次審査をプレゼンテーション審査と定め、令和2年1月号の大町市広報に応募要領を掲載して募集を行った。契約期間は令和2年4月1日～令和5年3月31日（3年間まで更新可能・最長で令和5年3月31日まで継続可能）とした。

その結果、2社からの応募があり、現地説明会の後、第一次書類審査及び第二次のプレゼンテーション審査を実施した結果、山内優氏「もるげんろーと」が、令和2年2月10日付で委託業者として採用が決定し、引き続き令和2年4月以降、ミュージアムカフェ・ショップの運営を行っていただくこととなった。

Ⅶ 関係条例規則等

1 市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日

条例第 12 号

改正 昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号

平成元年 3 月 24 日条例第 7 号

平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号

平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号

平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号

平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号

平成 17 年 12 月 6 日条例第 80 号

平成 24 年 3 月 26 日条例第 3 号

平成 26 年 3 月 28 日条例第 8 号

平成 29 年 3 月 15 日条例第 7 号

令和元年 12 月 23 日条例第 32 号

市立大町山岳博物館条例(昭和 29 年条例第 18 号)の全部を改正する。

(目的)

第 1 条 この条例は、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という。)第 18 条及び地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第 2 条 山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

(名称及び位置)

第 3 条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館 大町市大町 8056 番地 1

(職員)

第 4 条 法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2 必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

(観覧料)

第 5 条 博物館を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 小学校就学の始期に達するまでの者

(2) 大町市立学校に在学する児童又は生徒

(3) 市内に住所を有する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づく高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部その他これらに準ずる学校に在学する者をいう。以下同じ。)

(4) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

(観覧料の減免)

第 6 条 教育委員会は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(賠償責任)

第 8 条 故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

(博物館協議会)

第 9 条 法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

2 協議会の委員(以下「委員」という。)は 15 人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験のある者
- (4) 公募による市民等

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

1 この条例は、昭和57年6月5日から施行する。

2 この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例(昭和29年条例第18号)第5条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第10条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第3項の規定にかかわらず、昭和58年3月31日までとする。

附 則(昭和61年3月24日条例第8号)

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成元年3月24日条例第7号)

この条例は、平成元年4月1日から施行する。

附 則(平成4年3月31日条例第8号)

この条例は、平成4年4月1日から施行する。

附 則(平成5年12月24日条例第32号)

この条例は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成12年3月29日条例第13号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成13年3月27日条例第13号)

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成17年12月6日条例第80号)

この条例は、平成18年1月1日から施行する。

附 則(平成24年3月26日条例第3号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月28日条例第8号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月15日条例第7号抄)

この条例は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(令和元年12月23日条例第32号)

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

別表 (第5条関係)

種 別	区分	単 位	観覧料
一般	大人	1人	450円
	高校生	〃	350円
	小人	〃	200円
団体 (30人以上の場合をいう)	大人	〃	400円
	高校生	〃	300円
	小人	〃	150円

備考 特別の資料を展示する場合は、1,000円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

2 市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日

教育委員会規則第 3 号

改正 平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号

平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号

平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

(趣旨)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例(昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という。)の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という。)の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第 2 条 館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、館長の命を受け、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。

3 その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

4 館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。

5 嘱託員は、学術に関する職務に従事する。

(休館日)

第 3 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

(1) 毎週月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日の翌日(この日が月曜日に当たるときは、その翌日)

(3) 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日(前号に掲げる日を除く。)

(開館時間)

第 4 条 博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の交付)

第 5 条 条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券(様式第 1 号)に領収印を押印し、交付するものとする。

(観覧料の減免)

第 6 条 条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書(様式第 2 号)を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

(博物館資料の利用等)

第 7 条 条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書(様式第 3 号)を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

2 前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

(入館制限等)

第 8 条 教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2) 管理上支障があると認められるとき。

(3) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第 9 条 博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書(様式第 4 号)を教育委員会に提出するものとする。

2 寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

3 博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。

4 寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。

(資料等の滅失・損傷)

第 10 条 館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

(協議会の組織)

第 11 条 協議会に、委員の互選による会長及び副会長各 1 名を置く。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

(協議会の会議)

第 12 条 協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附 則

1 この規則は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。

2 市立大町山岳博物館規程(昭和 29 年教育委員会規則第 9 号)及び市立大町山岳博物館協議会規程(昭和 29 年山岳博物館規程第 1 号)は、廃止する。

附 則(平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号)

この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号)

この規則は、平成 10 年 1 月 1 日から施行する。

附 則(平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号)

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

様式(省略)

3 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成17年7月7日
教育委員会告示第8号

(趣旨)

第1 大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2 委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。

(組織)

第3 委員会は、委員10人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4 委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。

第5 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員が互選する。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(オブザーバー)

第6 委員会にオブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。

(会議)

第7 委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

(事務局)

第8 委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。

(補則)

第9 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この告示は、告示の日から施行する。

Ⅷ 市立大町山岳博物館の使命

平成 23 年 10 月

1 市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、今年で 60 周年を迎えた。昭和 24 年の設立趣旨には「地方文化の興隆」「信州文化の粹たる山岳文化の殿堂」「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民の博物館建設へ寄せた熱意と献身的な活動により山岳博物館が誕生した。

大町市は、山岳博物館創立 50 周年（平成 13 年）をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行った。

山岳博物館を誕生させた母なる北アルプスの雄大な姿は、将来、社会情勢がいかに変化し、科学技術が進歩しようとも、今と変わらず大町市民にとって常に身近な存在であり続けるであろう。

私たちは創立 60 周年を機に、あらためて設立当初の精神に立ち返り、「山岳文化都市宣言」の基本的理念を尊重しながら、これからの山岳博物館のあるべき姿を考えていく。

2 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりである。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めている。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人が共生する「山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図る。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することである。

(1) 大町市や周辺地域の人たちのために

- ①郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供する。
- ②この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所を提供する。
- ③郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意する。
- ④豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供する。
- ⑤博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にする。

(2) 大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために

- ①観光客・登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について、関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをする。
- ②「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となる。
- ③大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人が共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進める。

3 平成24年度からの市立大町山岳博物館の基本方針

(1) 調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研究機関と連携した調査や研究を推進する。

①調査・研究の分野・範囲

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおく。

②情報収集

調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用しただけのように、国内外から多くの情報を集める。

③体制づくり

国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進める。

(2) 資料の収集・整理、保管の推進

北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進する。

①収集・整理の推進

早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とする。

②収集の範囲

山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集をおこなう。

③保存・管理の推進

収集された資料は適正に管理された環境において保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とする。

(3) 調査研究の成果および収集資料の活用

調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進める。

①調査・研究の成果活用

調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用する。

②収集・保管の成果活用

収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用する。

③保護・保全への貢献

調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てる。

④体制づくり

山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくる。

(4) 教育普及活動の推進

地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすく興味を持てるように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

①生涯教育・社会教育の推進

博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開する。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に満たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

②学社連携・融合の推進

学校と博物館を結んだ事業を積極的に行い、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、関心を持つ

かけづくりをする。

③協働の推進

国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進する。

(5) 付属園（動植物園）の充実

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらうという考え方を大切にする。

①生体展示

生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。

②教育普及への活用

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。

③傷病鳥獣の救護

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。

④希少種の保護

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。

⑤施設整備の充実

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

IX 施設

1 敷地面積

41,575.69 m² (都市公園としての開設面積) 市有地 : 38,493.15 m²、民有地 : 3,082.54 m²

2 本館建物

(1) 構造 : 鉄筋コンクリート造 地上3階 地下1階

(2) 竣工 : 昭和57年5月31日竣工

(3) 面積 : 建築面積 1,280.9 m² 延べ床面積 2,207.04 m²

(4) 床面積表

(単位 : m²)

1階 1,244.9				2階 686.14			
名称	面積	名称	面積	名称	面積	名称	面積
1 展示室	290.0	14 準備室	9.1	26 展示室	290.0	31 研究室	34.8
2 収蔵庫	104.0	15 カフェ・ショップ ^o	74.2	27 ハッケージ室	14.9	32 資料庫	34.8
3 ハッケージ室	16.4	16 授乳室	6.7	28 展示室	113.6	33 図書室	34.8
4 燻蒸室	12.3	17 荷物置場	14.4	29 男子トイレ	18.2	34 資料庫	16.0
5 荷解作業室	41.3	18 ホール	116.9	30 収蔵庫	42.1	廊下階段等	86.9
6 特別展示室	70.4	19 多目的トイレ	6.5	3階 116.8			
7 EV機械室	6.0	20 女子トイレ	22.5	名称	面積	名称	面積
8 倉庫	3.5	21 書庫	16.7	35 展示室	94.6	階段	22.2
9 倉庫	3.0	22 更衣室	14.6	地階 159.2			
10 E.V	5.1	23 倉庫	8.8	名称	面積	名称	面積
11 講堂	110.2	24 事務室	69.6	36 機械室	118.8	階段	17.4
12 トイレ	8.1	25 休憩室	32.5	37 車庫	23.0		
13 倉庫	5.4	廊下、階段等	176.7				



3 付属施設

(1) 付属園（付属動植物園） ※本館隣

①施設の概要 敷地面積：39,875.92 m²

②建物の概要（建設年度順） ※B-8・10については放飼場の面積を除く

施設名・構造・建築面積(築年度)			施設名・構造・建築面積(築年度)			施設名・構造・建築面積(築年度)		
B-1	CB造	28.20(S38→S55 移設)	B-8	CB造	26.92(H1)	A-10	木造	52.00(H21)
B-2	CB造	14.79(S38→S55 移設)	B-9	CB造	34.83(H3,4)	A-11	木造	42.00(H27)
B-3	CB造	22.62(S53)	B-10	CB造	5.20(H3)	A-12	木造	33.00(H27)
B-4	パネル造	39.63(S54・55)	B-11	鉄骨造	67.65(H4)	A-13	木造	19.13(H27)
B-6	パネル造	18.99(S60,61)	B-12	鉄骨造	86.44(H7)	A-14	木造	146.16(H29)
B-7	CB造	46.50(S61)						



(2) 山岳図書資料館 ※本館隣

①施設の概要

- ・構造・規模：鉄骨造 地上2階
- ・竣工・開館：平成24年3月2日竣工 平成24年4月20日開館
- ・各面積：敷地面積498.21 m² 建築面積59.96 m²
延床面積117.45 m² (1階58.725 m²、2階58.725 m²)
- ・設備・備品：ハンドル式移動書架18基 固定式書架(各種)29基 ほか

X 利用案内 (令和3年3月31日現在)

- 1 開館時間 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 2 休館日 毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始 (12月29日～1月3日)
※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館 7月・8月は無休
- 3 交通 公共機関 JR信濃大町駅から タクシー5分、徒歩25分
車 長野自動車道安曇野ICから40分
(北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ28km)
※博物館前に無料駐車場 (普通車30台・大型バス5台収容)

4 観覧料	区 分	大 人	高校生	小・中学生
	個 人	450円	350円	200円
	団 体 (30名様以上)	400円	300円	150円

- 5 ユニバーサルデザイン
入口スロープ、入口階段手すり、玄関自動ドア、多目的トイレ、授乳室、車イス対応エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、アシスタントドッグ同伴可能

6 所在地および連絡先

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

(標高: 766m、経緯: 北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分)

TEL: 0261-22-0211 / FAX: 0261-21-2133

E-mail: sanpaku@city.omachi.nagano.jp

URL: <https://www.omachi-sanpaku.com>

市立大町山岳博物館 令和2年度 年報

2021(令和3)年8月30日発行

編集・発行 市立大町山岳博物館

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

TEL:0261-22-0211 / FAX:0261-21-2133

印刷・製本 有限会社北辰印刷

〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1

TEL:0261-22-3030 / FAX:0261-23-2010

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。